

統合報告書 2024

国立大学法人

富山大学

University of Toyama

学長メッセージ / Message from the President

令和6年能登半島地震に際し、被災された皆様及びその関係の方々に心よりお見舞い申し上げます。富山大学では、発災翌日に派遣を開始した附属病院DMAT等による医療支援をはじめ、輪島漆芸技術研修所の研修生の受入れや学生ボランティアによる活動などにより復興支援に尽力してまいりました。

今後も支援活動を継続するとともに、自然災害に対する研究および人材育成に力を入れてまいります。

さて、このたび、本学の活動をご支援くださるステークホルダーの皆様に、本学のビジョン、教育・研究・社会貢献などの活動状況、財務情報をより深く、より分かりやすくお伝えするために「統合報告書」を発行することにいたしました。

皆様に、富山大学をより身近に感じていただき、その活動をご理解いただくための資料となれば幸いです。

富山大学は旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を再編・統合し、平成17年10月に発足しました。現在では9学部4研究科2学環に加え附置研究所である和漢医薬学総合研究所、附属病院、附属学校園に9,300名の学生と約2,400名の教職員が在籍しており、日本海側有数の国立総合大学として地域と国際社会の発展に貢献すべく多様な分野で活動しています。

現代は、少子高齢化、グローバル化、気候変動など激しい変化に直面しています。このような状況下で、課題を解決し新たな価値を創造するためには、異なる分野の知識や知見を統合する「総合知」が求められます。そのためには、大学がこれまで以上に地域社会や産業界と連携することが鍵となります。

本学の教育では、「総合知」を活用する土台となる「データサイエンス」「アクティブラーニング」「英語教育」の3つを重視しています。また、研究においては本学が強み・特色とし、地域産業に貢献する5つの分野（「カーボンニュートラル」「ヘルスケア・創薬」「軽金属」「データサイエンス」「文化財保存」）を重点的に育成しています。

特に富山県の主要産業である軽金属（アルミニウム）産業の活性化に寄与するため、令和5年度、高岡キャンパスに軽金属材料共同研究棟が完成しました。アルミニウムリサイクルの拠点として、産学官金民が協働で取り組む資源循環型社会モデルの構築を目指します。

富山大学は令和7年に統合20周年の節目を迎えます。

これからも、地域や世界で活躍する人材を育成し、地域の発展に寄与するとともに、世界に貢献する新たな価値を創造し続けることで、更なる発展を遂げていきたいと考えております。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

富山大学長 齋藤 滋

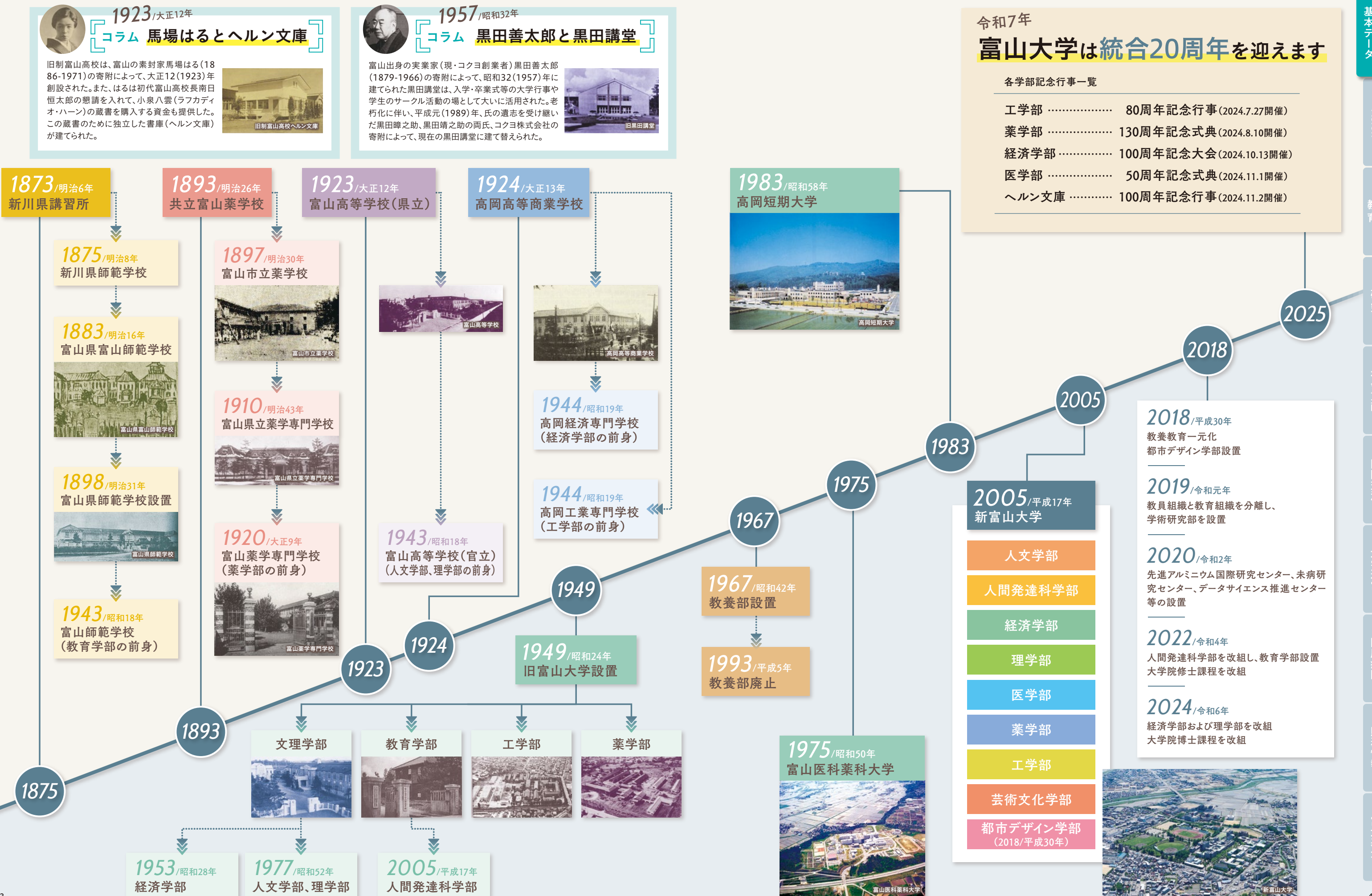
Contents

- 01 学長メッセージ
- 03 沿革
- 05 数字で見る富山大学
- 07 ガバナンス体制
- 09 Vision

【取組紹介】

- 11 教育
- 15 研究
- 19 社会貢献
- 21 能登半島地震への対応
- 23 国際交流
- 25 大学運営
- 27 附属病院
- 29 財務情報
- 35 富山大学基金

※この統合報告書2024は、令和5事業年度財務諸表等を基に作成しています。
金額は、切り捨てで作成しているため、合計が一致しない場合があります。



1923/大正12年

『コラム 馬場はるとヘルン文庫』

旧制富山高校は、富山の素封家馬場はる(1886-1971)の寄附によって、大正12(1923)年創設された。また、はるは初代富山高校長南日恒太郎の懇請を入れて、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の蔵書を購入する資金も提供した。この蔵書のために独立した書庫(ヘルン文庫)が建てられた。



1957/昭和32年

『コラム 黒田善太郎と黒田講堂』

富山出身の実業家(現・コクヨ創業者)黒田善太郎(1879-1966)の寄附によって、昭和32(1957)年に建てられた黒田講堂は、入学・卒業式等の大学行事や学生のサークル活動の場として大いに活用された。老朽化に伴い、平成元(1989)年、氏の遺志を受け継いだ黒田暲之助、黒田靖之助の両氏、コクヨ株式会社の寄附によって、現在の黒田講堂に建て替えられた。



令和7年

富山大学は統合20周年を迎えます

各学部記念行事一覧

工学部	80周年記念行事(2024.7.27開催)
薬学部	130周年記念式典(2024.8.10開催)
経済学部	100周年記念大会(2024.10.13開催)
医学部	50周年記念式典(2024.11.1開催)
ヘルン文庫	100周年記念行事(2024.11.2開催)

学部・研究科等数

9学部 4研究科 2学環

人文学部	人文社会芸術総合研究科
教育学部	総合医薬学研究科
経済学部	理工学研究科
理学部	教職実践開発研究科
工学部	持続可能社会創成学環
医学部	医薬理工学環
薬学部	
芸術文化学部	
都市デザイン学部	

学生数

9,292人 ※令和6年5月1日現在

学部生 7,937人 / 大学院生 1,355人

男女比 約6:4

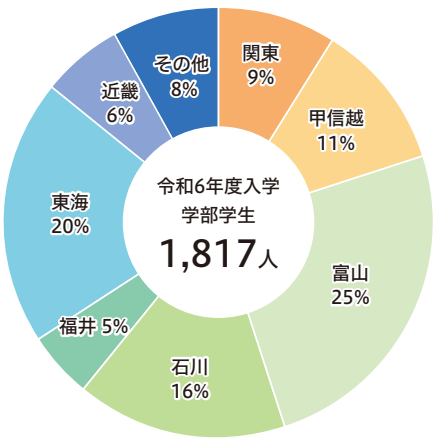
入学志願者数

※令和6年度入試
※編入学、大学院を除く

志願者数:6,013人

入学者数:1,817人

学部学生地域別入学状況



大学に関する詳細な情報は、大学ウェブサイト「大学紹介」からご確認ください。



click

卒業・修了者数

2,226人 ※令和5年度卒業・修了者

〈内訳〉

学部:1,732人 /

大学院(修士):427人 / 大学院(博士):53人 /

大学院(専門職学位):14人

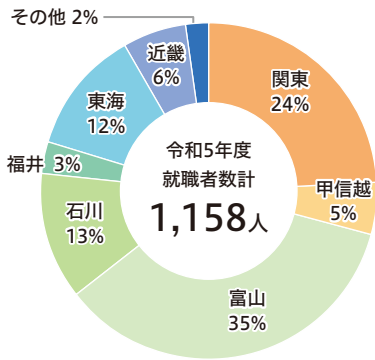
卒業・修了者の進路状況



click

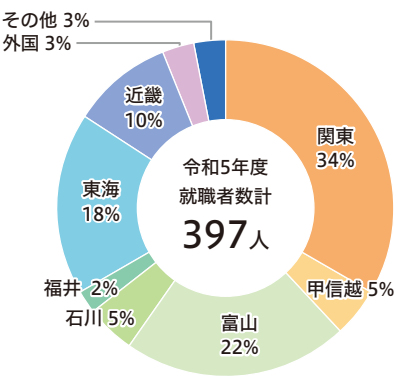
学部学生の就職率・地域別就職状況

就職率 98.5% ※令和5年度卒業者
※就職希望者に対する、就職者の割合



大学院生の就職率・地域別就職状況

就職率 99.3% ※令和5年度修了者
※就職希望者に対する、就職者の割合



常勤教員あたりの学生数



10.9人の学生に1人の教員

教員数 851人 ※令和6年5月1日現在

※附属学校教諭を除く

アクティブラーニング導入率

81% ※令和4年度

蔵書数

※令和6年3月31日現在

1,324,268冊

電子ジャーナル数

※令和5年度

13,889種

公開講座

※令和5年度実績

81講座

受講者数523人

生涯学習情報



click

外国人留学生数

※令和6年5月1日現在

28か国・地域 321人

〈留学生数上位5か国〉

中国:180人 / ベトナム:22人 /

マレーシア:21人 /

インドネシア:17人 /

オランダ・パキスタン:10人

国際交流協定数

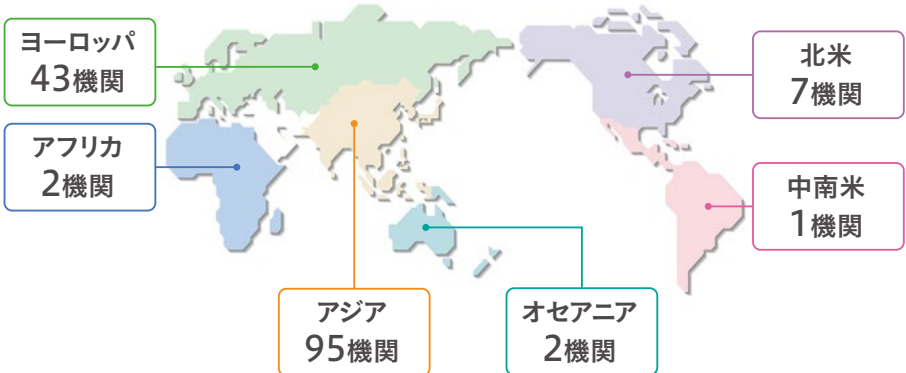
※令和6年10月現在

34か国・地域 150機関

大学間交流協定:21か国・地域49機関 / 部局間交流協定:27か国・地域97機関

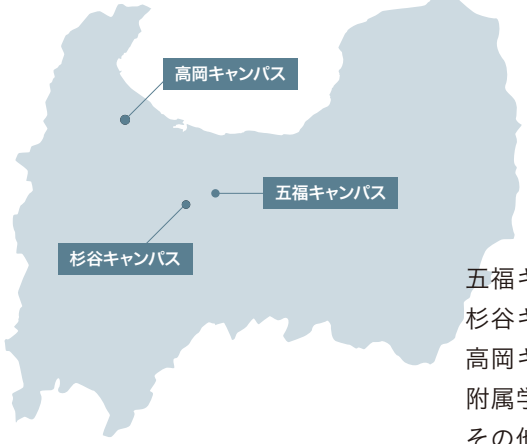
国際協力拠点:3か国・3機関 / 富山大学リエゾンオフィス: 3か国・5機関

最新の締結状況は「国際交流」
23-24ページをご覧ください。



土地面積

843,860㎡



共同研究件数

266件

受託研究件数

211件

科研費採択件数

440件

※令和5年度

特許保有件数

306件 ※令和6年3月31日現在

国内203件 / 外国103件

女性教員比率

19.0%

若手教員比率

22.7%

※令和6年10月1日現在

附属病院 病床数

612床

外来患者延数 (年間)

301,045人

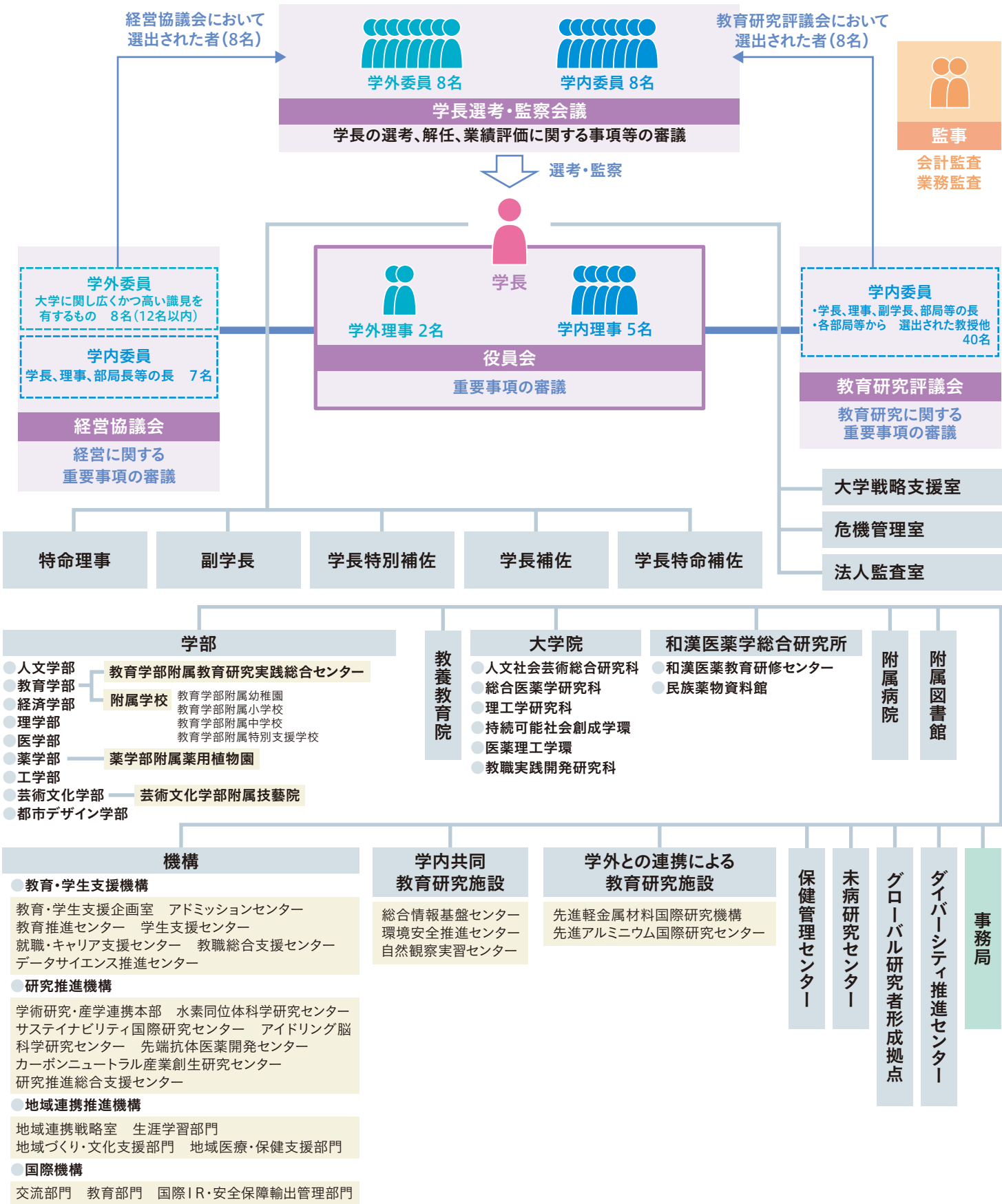
入院患者延数 (年間)

178,895人

※令和5年度

経営及び教学運営に係る重要事項の審議機関として、国立大学法人法や本学学則に基づき、役員会、経営協議会及び教育研究評議会を設置し、自主的・自律的・戦略的な経営を行う体制を構築しています。

運営組織



役員

役員



学 長
齋藤 滋



理事・副学長
(大学改革担当)
井上 将彦



理事・副学長
(研究担当)
北島 勲



理事・副学長
(国際担当)
池田 真行



理事・副学長
(教育担当)
磯部 祐子



理事・副学長
(地域貢献担当)
武山 良三



理事 非常勤
(大学運営担当)
高木 繁雄



理事 非常勤
(特命担当)
野田 万起子

監 事



監事 常 勤
長津 輝彦



監事 非常勤
宮林 紀子

特命理事

鈴木 規子 総務、財務、労務、施設等(事務局長)

副学長

林 篤志 病院運営・経営(附属病院長)
鳥海 清司 教養教育、入試改革、教員養成等
會澤 宣一 学生支援
酒井 秀紀 地域産業創生、附属図書館

経営協議会学外委員

石塚 勝 富山県立大学名誉教授
稲垣 晴彦 北陸コカ・コーラボトリング株式会社代表取締役会長
稲田 裕彦 救急薬品工業株式会社代表取締役社長
大西 珠枝 玉川大学芸術学部元教授
蔵堀 祐一 富山県副知事
伍嶋二美男 あいの風とやま鉄道株式会社代表取締役社長
林 勇二郎 金沢大学名誉教授
森 雅志 前富山市長

国立大学法人ガバナンス・コードに係る適合状況について、毎年公表を行っています。

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人が更に経営の透明性を高め、教育・研究・社会貢献機能を一層強化し、社会の変化に応じた役割を果たし続けていくために、自らの経営を律しつつ、その機能を更なる高みへと進めるための、基本原則となる規範として、国立大学協会、文部科学省、内閣府の三者による合意の下、策定・公表されたものです。

本学は、これまでも法令に従い活動を行ってまいりました。今後は更に、本ガバナンス・コードを基本原則としてそれぞれの特性等を踏まえた取組を実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、自ら強靱なガバナンス体制を構築していきます。また、一層経営の透明性を向上させ社会への説明責任を果たし、社会の皆様からの信頼と理解を得続けられるよう努めてまいります。

本ガバナンス・コードに対する適合状況等については毎年点検を行い、本学経営協議会および監事の意見を受けたうえで、本学のウェブサイトにおいて公表しています。

国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況について



click

“みんなで創ろう！”
おもしろい大学

富山大学ビジョン “Saito Vision 2023”

「Saito Vision」とは、齋藤 滋 学長が目指す大学像、大学運営の方針です。
教職員・学生・その他大学に関係する全ての方と共に課題に真摯に取り組み、
良い大学を作り上げることを目指しています。

3つのVision

1. 未来への扉を開く授業、社会に革新を与える研究をみんなで創りあげる
2. 超スマート社会「Society 5.0」に対応した人材を育成し、
グローバル化する社会の持続的発展に寄与する
3. 「地(知)を楽しみ、知(地)を活かす」拠点として
地域産業の発展と、ウェルビーイングの向上に貢献する



教育

- ◆高度デジタルエキスパート人材の育成
- ◆学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育
・学生支援の推進
- ◆グローバル人材の養成
- ◆大学院教育の充実



研究

- ◆社会の課題解決・イノベーション
に寄与する研究の推進
- ◆社会実装を目指した
東西医薬学融合研究の推進
- ◆世界トップレベルの
研究拠点を形成

Action Plan

—ビジョンを具体化する戦略—



社会貢献

- ◆産学官金連携による地域活性化を推進
- ◆地域への情報発信と定期的な対話
- ◆リカレント教育等の質向上
- ◆地域住民の健康を守るための
医療連携と高度医療の強化



大学運営

- ◆学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備
- ◆エビデンスベースの法人経営
- ◆財源の多元化・安定的な財務基盤の確立
- ◆カーボンニュートラルの実現に向けた
取組を推進



「Saito Vision」

click

データサイエンス教育の展開

現代社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力を養成するため、「富山大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(令和2年度開始)」を中核として、初年次の教養教育から学部専門教育に至るまで体系的なデータサイエンス教育を行っています。

令和5年度には、本プログラムが先導的で独自の工夫・特色を有していることが評価され、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベルプラス)」に選定されました。

また、工学部と都市デザイン学部のカリキュラムについては、専門分野への応用基礎力を習得できる水準であることから、同制度により「認定プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。

経済学部と理学部においては、令和6年度に学部改組を行い、それぞれ1学科制に移行するとともに、数理・データサイエンスに関するコース/プログラムを開設するなど全学を挙げてデータサイエンス教育に取り組んでいます。



教育・学生支援機構データサイエンス推進センター



click

富山大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム



トピック

経済学部1学科3プログラム制に改組
-経済データサイエンスプログラム開設-

経済学部は令和6年度から、従来の3学科を統合し、新たに「経済経営学科」1学科3プログラムに再編しました。

社会科学分野の総合的な知識を基に、データを分析・活用しながらビジネスや社会課題を解決する実践的な能力を持つ人材を育成します。

経済データサイエンスプログラムでは、データサイエンスの専門的能力を備え、企業経営や公共政策の意志決定に直結する応用力を身につけることができます。

【改組後】1学科+3プログラム



※2年次からプログラムに所属

経済学部 2024年経済経営学科誕生



click

トピック

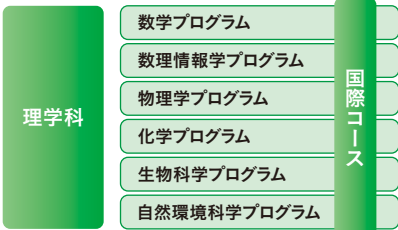
理学部1学科6プログラム制に改組
-数理情報学プログラム開設-

理学部は令和6年度から、理学科1学科6プログラムへと再編しました。

理学に関する幅広い知識と各分野の専門知識を持ち、論理的思考を通じて課題解決に取り組むことができる人材を育成します。また、グリーン科学・環境科学の学びを通じて、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を身につけます。

数理情報学プログラムでは、数理の力とデータサイエンスの力をかけ合わせた最先端技術を学ぶことにより、自然界の法則を読み解く力や、社会を支える数学・数理科学の知識を身につけることができます。

【改組後】1学科+6プログラム



理学部 2024年4月新理学部スタート



click

経済学部データサイエンス寄附講座

令和3年度、日本電気株式会社をはじめとする企業からのご出資により、経済学部「データサイエンス寄附講座」を設置しました。同講座が開講する授業科目では、企業・団体・自治体等から寄せられた課題に対して、学生がデータサイエンスを基に、解決策を提案することで地域貢献に寄与するとともに優秀なデータサイエンティストを養成する取組を行っています。

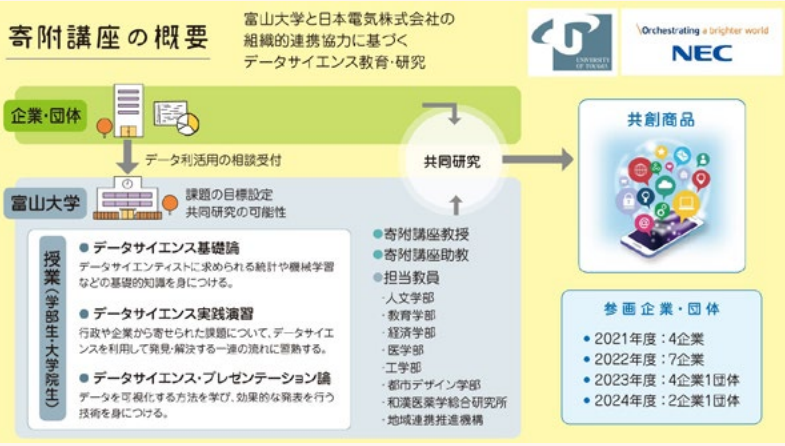
【令和5年度提供課題】

- ・魚津地域通貨「MiraPay」+「オープンデータ」を利用した地域活性化
- ・都市OSを利用した防災対応のための基礎的データ解析
- ・「ICT×無人化施工」による建設DXへの実証研究
- ・道路異状箇所リアルタイム検知技術の実証研究
- ・店舗利用状況改善に関する研究
- ・地域コミュニティの中核機能を目指す戦略策定

データサイエンス寄附講座



click



トピック

大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保)に採択

令和5年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保)に採択されました。本事業は、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成を支援するものです。

理学部(数理情報学プログラム)、工学部(知能情報コース)、理工学研究科(数理情報学プログラム)の定員を増員するとともに、富山高等専門学校とのカリキュラム開発、県内企業からの実務家教員派遣等を通じて、高度情報人材の育成を強化していきます。

理学部(R6:定員増15名)

工学部(R6:定員増15名)



コラム 教育の3本柱

富山大学ではデータサイエンス教育に加え、アクティブラーニング、英語教育を「教育の3本柱」として大学を挙げて強化しています。

①データサイエンス教育

-社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力の養成-

②アクティブラーニング

-自ら考え、学び、課題解決に繋げる姿勢-

一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的参加を取り入れた「アクティブラーニング」への転換を全学的に進めています。グループワーク、ディスカッション、反転授業、PBL型授業等の手法を取り入れた「アクティブラーニング導入率」は、81%まで上昇しています(2023年度)。

③英語教育

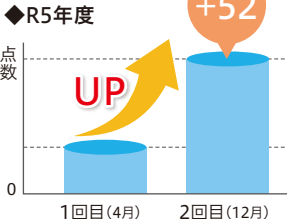
-グローバルな世界で通用するコミュニケーション能力-

習熟度別クラス分け、テーマ別クラス分け、eラーニング、TOEIC-IPテスト及び海外英語研修等による体系的な英語教育を展開しています。TOEIC-IPテストは、1年次に2回(4月と12月以降)、3年次に1回、大学の費用負担による受験機会を設けています。2023年度入学者では4月に比べて12月の平均点が52点上昇しました。

富山大学の英語教育



click



グループワーク(全学横断PBL)

大学院改組による分野間連携・融合教育の実現

令和4年4月に修士課程、令和6年4月に博士課程・博士後期課程を全面改組しました。
これにより、専門職大学院である教職実践開発研究科を含めた4研究科2学環で、本学の強みを生かしつつ、分野間の連携・融合を図り、新たな価値を創出する体制を構築しています。

詳細はこちら

令和4年4月修士課程改組



click

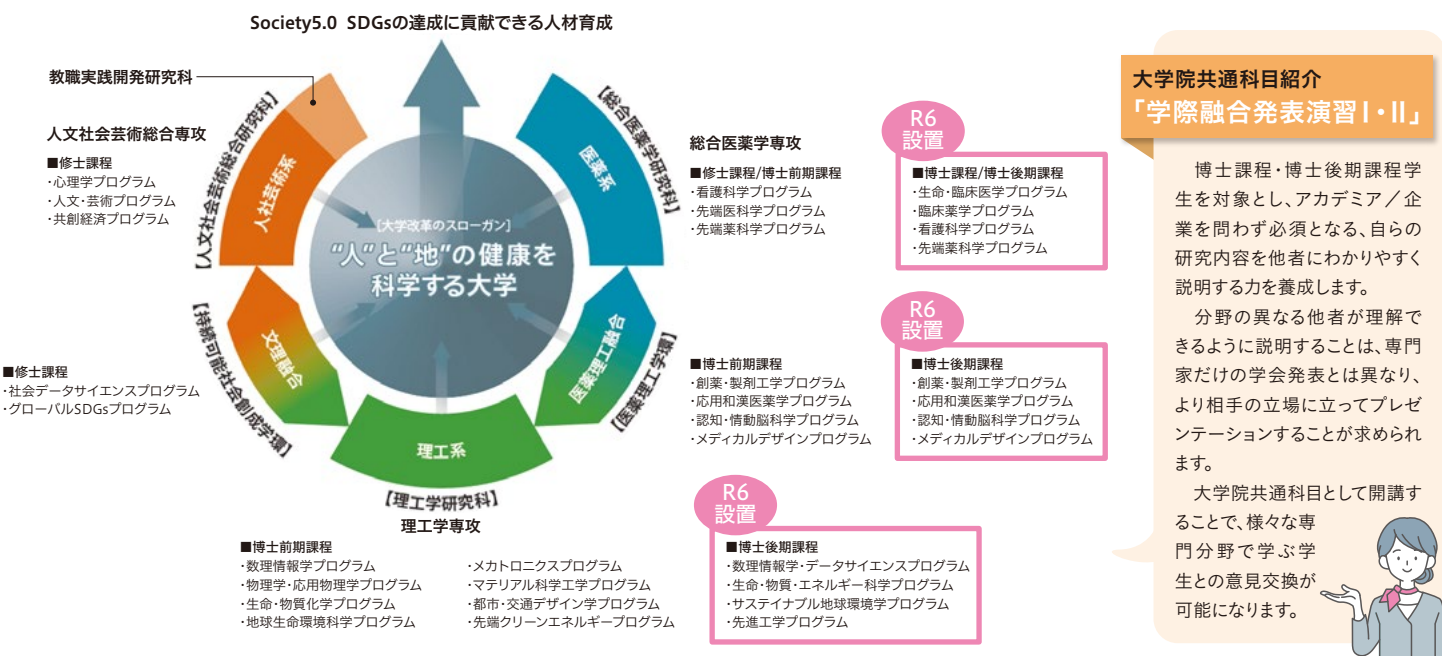
令和6年4月博士課程改組



click

「総合知」を身につけることのできる分野間連携・融合教育の実現

- ・高度な教養又は基盤的能力を身につけるための大学院共通科目を提供
- ・専門分野の異なる複数の指導教員による指導・助言体制の構築
- ・学問分野を超えた融合教育を実現し、学際的領域横断型教育を展開



トピック

博士号短期取得プラン開始

一定の研究業績を有する社会人を対象とし、博士後期課程(標準修業年限3年)を最短1年で修了し、課程博士号を取得する制度を令和7年4月入学(令和7年度入試)から開始します。
本制度は、社会人として積み重ねてきた実績を基に研究指導を受け、博士論文を完成させる制度です。
入学試験時の審査において一定の基準を満たし、かつ博士課程学生として十分な能力を有すると認められれば、最短1年で課程博士号を取得するプランで学ぶことが可能です。
本制度により、社会人の学び直しを支援するとともに、大学院の活性化を目指します。

対象プログラム

総合医薬学研究科	先端薬科学プログラム, 臨床薬学プログラム※
理工学研究科	数理情報学・データサイエンスプログラム, 生命・物質・エネルギー科学プログラム, サステイナブル地球環境学プログラム, 先進工学プログラム
医薬理工学環	創薬・製剤工学プログラム, 応用和漢医薬学プログラム, 認知・情動脳科学プログラム, メディカルデザインプログラム

※標準修業年限4年である博士課程を最短3年で修了する制度

入学試験時の審査基準等詳細



click

博士課程学生支援プロジェクト

- 次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) -

本学 SPRING 事業



click

国立研究開発法人科学技術振興機構が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)」の採択を受け、令和3年度から、大学院博士後期課程の学生に対する経済的支援及びキャリアパスの充実を図っています。

意欲ある優秀な学生が博士後期課程に進み、その能力を最大限に発揮できる環境を提供するとともに、本学の研究力向上により、創薬・ヘルスケア、軽金属、カーボンニュートラルといった本学の強みを活かした地域産業の振興を図り、世界の諸課題の解決に貢献する先導的人材を育成することで、我が国の競争力向上を目指しています。

支援対象

令和6年度支援人数: 67名

博士後期課程に入学予定の者を対象に、毎年度20名程度募集しています。
支援期間は、博士後期課程の標準修業年限以内とし、原則、入学から修了までを支援します。

支援内容

- ・研究奨励費(生活費相当額): 年額216万円(月額18万円)
- ・研究費: 年額50万円
- ・その他、海外留学、インターンシップ、国際学会、英語論文投稿に必要な経費の支援
- ・キャリア開発・育成コンテンツの提供

事業による取組紹介

(1) 研究者として必要な表現力を身につける「伝わるプレゼン・ポスター講習会」の開催

芸術系学部を有する総合大学である特色を活かし、**プレゼンテーション力の向上**を目的として実施しています。
学生が事前に作成したポスターレイアウトに対し、講師がデザイン表現の基本を踏まえた改善案を提示します。これにより、自身の研究分野の研究者だけでなく、**多くの方に分かりやすく説明する能力**の向上が期待できます。



伝わるプレゼン・ポスター講習会

(2) 「研究不正防止研修会」の開催

外部講師による「**研究不正防止研修会**」を**ワークショップ形式で開催**しています。
具体的な事例を用いて、研究データの管理方法などを学び、グループで意見を交わすことで、**研究者として必須の知識を実践的に身につけます**。



研究不正防止研修会

(3) 学外での研究成果発表の推進

学内にとどまらず、産官学の様々な分野の方が集う場において、日頃の研究成果を発表する機会を設けています。
より多くの方に、自身の研究成果を発表し、**博士課程学生が持つ深い専門性や課題解決能力**を社会に発信しています。

その他、英語能力向上プログラムや、留学生を対象とした日本語教育プログラムなどを推進しています。

事業による成果

博士後期課程学生の増加

本事業が始まった令和3年度から、博士後期課程学生数が増加しています。

論文投稿及び国際学会発表数の増加

支援対象学生は、年間1報の論文投稿もしくは国際学会発表を実施することとしており、研究力の向上を図っています。

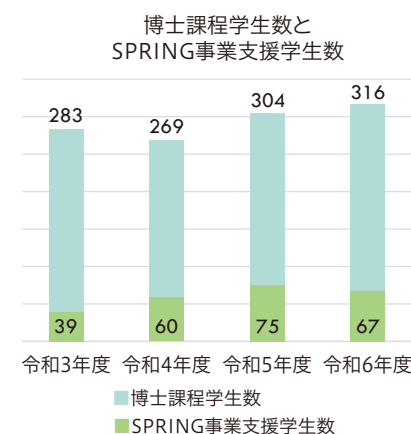
令和5年度

一人あたりの研究発表数 約2.3件

論文投稿数 97件
国際学会発表数 75件



富山・バーゼルジョイントシンポジウム
研究発表の様子



1. 重点5分野を中心とした研究力強化

本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある重点5分野(カーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属、データサイエンス、文化財保存)等を中心に、研究・技術開発を全学体制で行っています。

重点5分野

カーボンニュートラル

ヘルスケア・創薬

軽金属

データサイエンス

文化財保存

コラム「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」による成果

本学は令和4年度、大学の社会貢献活動を推進し、財源多様化による経営基盤の強化を促す内閣府の事業「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されました。この事業では、重点領域の研究(特に 創薬・ヘルスケア及びカーボンニュートラル)における課題解決と社会実装を加速化する成果の創出に取り組むとともに、研究支援体制の更なる強化を図ってきました。

本事業の取組により、TOP10%論文数や外部資金獲得額等の研究指標が向上し、支援期間が原則2年間であるところ、プラス1年間・1億円の支援を受けることができました(令和4年度に採択された11大学中2大学のみ)。

引き続き全学的な研究機能強化及び成果の創出に取り組んでいます。

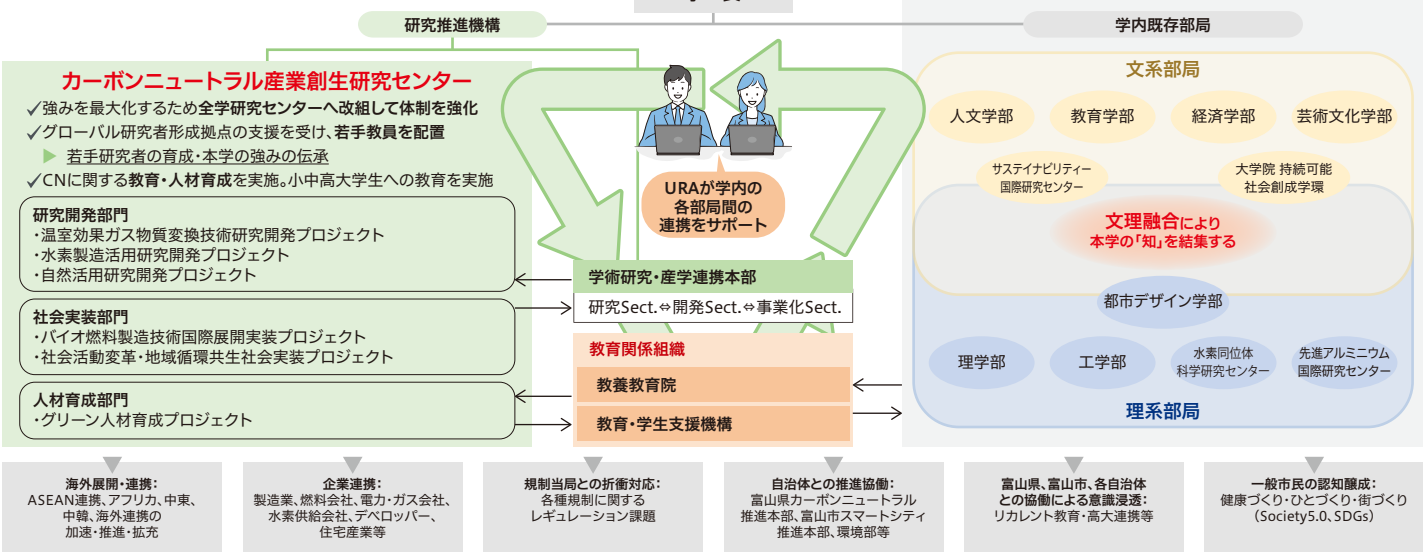
主な指標	R3	R4	R5	R3→R5
共同研究受入額 ※1	3.14億円	3.37億円	3.62億円	15%増
受託研究受入額 ※2	9.03億円	9.21億円	11.61億円	28%増
競争的研究資金獲得額	13.1億円	15億円	15.2億円	15%増

※1、※2 それぞれ共同事業受入額、受託事業受入額を含む

2. カーボンニュートラル産業創生研究センターを設置



富山大学のカーボンニュートラル推進体制



令和6年2月、カーボンニュートラルに関する研究を全学が一体となって支援し、研究成果の社会実装及びグリーン人材の育成を進め、持続可能な社会の形成に貢献するため「カーボンニュートラル産業創生研究センター」を設置しました。

本学では、これまで個々の研究者がカーボンニュートラルに関連する研究において高度な業績を上げてきましたが、その成果を社会実装に繋げるための支援が求められていました。また、今後ますます増加が予想される産学官連携や外部資金の獲得を視野に、本学の強みを組織的に支援する体制を早急に整備することが必要不可欠でした。さらに、異分野連携を含めた研究力強化やカーボンニュートラル分野の人材育成にも努める必要がありました。

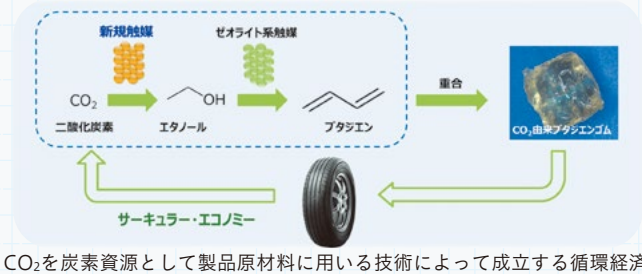
同センターは、研究開発部門、社会実装部門及び人材育成部門の3部門を設置しており、関係部局と協力しながら、研究開発、社会実装の促進を行い研究成果を教育に還元してグリーン人材の育成に貢献します。

カーボンニュートラル

―サステナブル素材採用タイヤの開発に向けて―
二酸化炭素を原料としたブタジエンゴムの合成に成功

椿範立教授(学術研究部工学系)は、TOYO TIRE株式会社との共同研究において、二酸化炭素から高収率でブタジエンへ変換する触媒を開発し、タイヤの主原料であるブタジエンゴムの合成に成功しました。

ブタジエンゴムは従来、石油由来の原料を用いますが、温室効果ガスの一つである二酸化炭素から合成したブタジエンを使用することで、生成過程での環境負荷(二酸化炭素排出量)の極小化に大きな成果が得られると考えられます。また、ブタジエンゴムの重合に二酸化炭素を出発原料として採用することによって、将来的には、タイヤのLCA(Life Cycle Assessment)の観点からも、直接的に有効で有力な素材として活用できる可能性が期待されます。



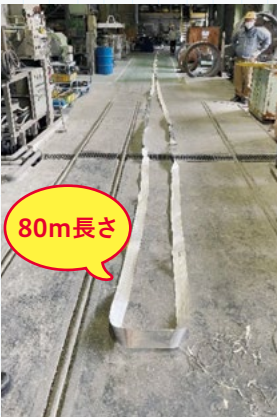
カーボンニュートラル

マグネシウム蓄電池用負極材料の軽薄長大化に向けて

附田之欣講師(学術研究部都市デザイン学系)は、富山県立大学及び中越合金鋳工株式会社と共同で、富山県新世紀産業機構グリーン成長戦略分野研究開発支援事業の助成プログラムを2年間推進して、マグネシウム蓄電池用負極材料の課題であった低コストで軽薄長大化の可能性を見出しました。実施に当たっては、埼玉県産業技術総合センターと大阪工業大学の協力を得て行われました。

リチウム電池はスマホやノートPC等に使用されていますが、産地が限られており、安全性にも課題があります。そのため、カーボンニュートラルの達成に向け、革新的な次世代電池への置き換えが求められています。

そこで今回、研究グループは資源が豊富であり、価格も比較的安価なマグネシウムに注目しました。マグネシウムに適量のアルミニウムとカルシウムを混合して溶解した合金を用いることで、従来の方法に比べて短時間で軽薄長大な電極の作製が可能となり、マグネシウム蓄電池の低コスト化推進が見込まれます。



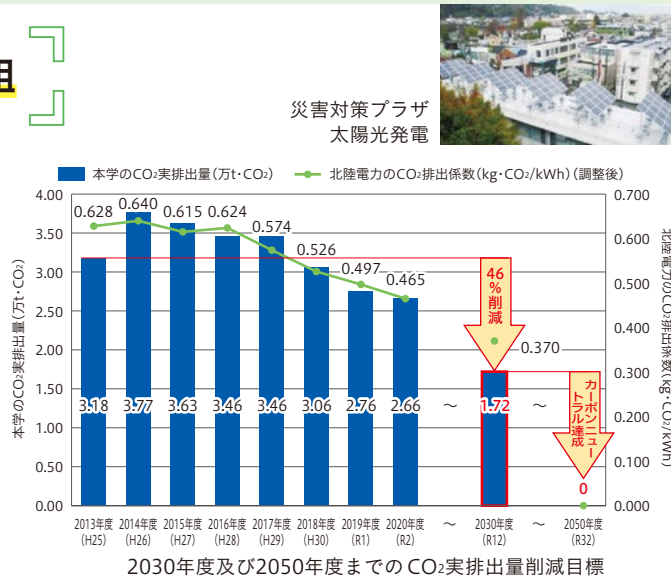
コラム 富山大学のCO2削減の取組

大学は教育、研究、診療など多岐にわたる事業の実施に伴い、大量のCO2を排出しています。

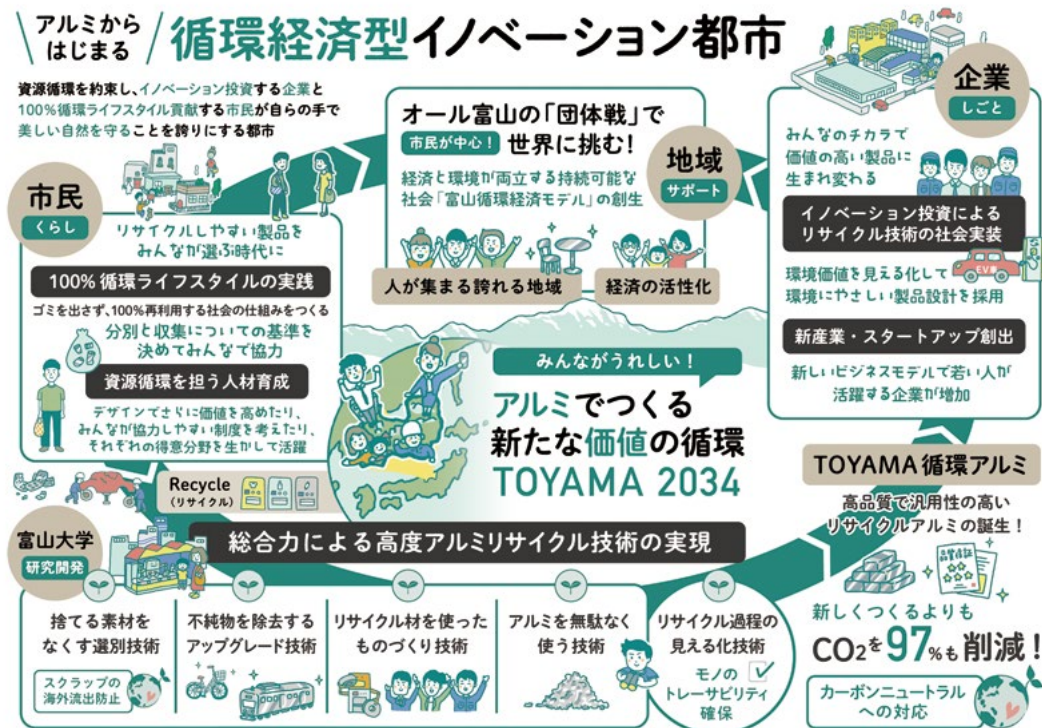
将来にわたって持続的に活動を継続するためにも本学では、2030年度までにCO2排出量を46%削減する目標を掲げるとともに、2050年度までのカーボンニュートラル達成を目指して取組を推進しています。

具体的取組:

- 省エネルギー・省資源
⇒照明設備のLED化、空調設備の高効率機器へ転換
- 創エネルギー(再生可能エネルギー)
⇒オフサイトPPAの導入
- ZEB(Zero Energy Building)改修



3. アルミリサイクルシステムによる資源循環社会モデルの構築
ー富山循環経済モデル創成に向けた産学官民共創拠点ー



令和4年度、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野(育成型)」に採択され、「富山資源循環モデル創成にむけた産学官民共創拠点」を設立しました。

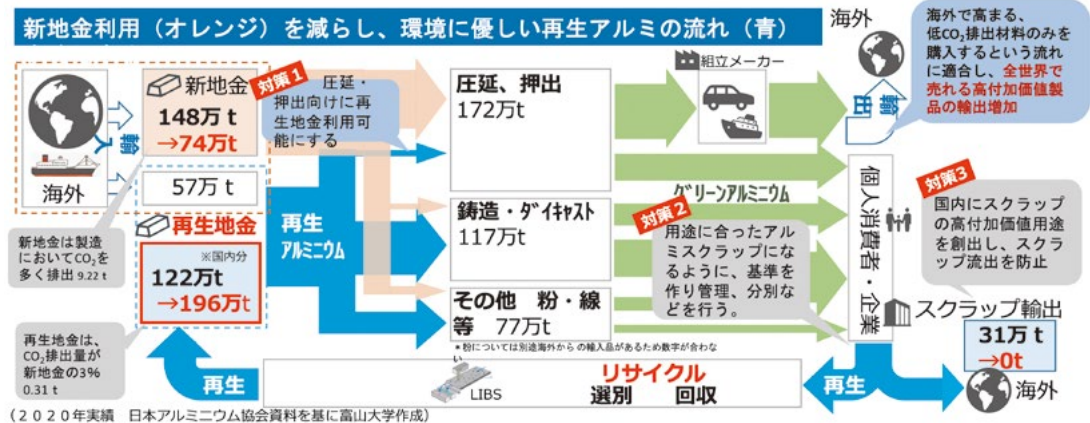
富山県はアルミ押し出し製品出荷額日本一を誇るなど、アルミ生産は県の重要産業です。しかしながら、①アルミ新地金製造には大量の電気を必要とし、二酸化炭素排出量が高く、今後利用に規制がかかる可能性があることや、②原料のアルミ新地金が全量海外からの輸入であり他国との資源争奪戦が始まっている等の課題があり、その解決には、アルミスクラップのより幅広い用途への活用が求められています。

本拠点では現状利用不可能な用途に対して、不純物を含むアルミスクラップからの再生地金を利用可能にする研究開発を行っています。また、富山におけるリサイクルシステム(資源循環社会モデル)を産学官民のステークホルダーと共に構築し、富山のアルミの環境付加価値を向上させ、県内企業がEV等の新市場へ進出することを支援します。

富山で資源循環社会モデルを創成し、日本全体に横展開をすることで、富山県の工業の持続的発展、我が国のアルミ産業の発展、地球規模での環境保護に貢献します。

富山大学は、「産」「学」「官」そして「民」の協働で、富山ブランドの高付加価値リサイクルアルミの100%循環を実現し、地域産業の活性化や新産業創出に貢献します。

■ アルミリサイクルによる資源循環の流れ



組織紹介

先進軽金属材料国際研究機構
先進アルミニウム国際研究センター



軽金属材料共同研究棟 (Plant Zero)

令和3年4月、熊本大学との連携で「先進軽金属国際研究機構(ILM)」を設置しました。同機構は、富山大学先進アルミニウム国際研究センター(ARC)と熊本大学先進マグネシウム国際研究センター(MRC)が有する資源を有効に活用し、SDGs、環境・エネルギー、医療機器等の重要課題解決に向け、軽金属材料の革新を基軸にした世界的・全国的な研究及び教育の総合的推進を目的としています。

令和4年度には、文部科学省が認定する「全国共同利用・共同研究拠点」に認定されました。軽金属材料研究分野の中核的施設として、全国の研究者の利用が見込まれます。

また、本学先進アルミニウム国際研究センターは、アルミニウム材料に関する専門的で高度な教育・研究を産学官連携の下で実施しており、都市デザイン学部材料デザイン工学科をはじめ、関係する学部との協力体制により、材料学の基礎学理から応用研究、さらには社会実装研究に至る広範囲な科学と工学が学べます。また、前頁で紹介した富山循環経済モデル創成に向けた事業においても、主導的な役割を担っています。

トピック

高岡キャンパスに軽金属材料共同研究棟(Plant Zero)を開所

令和5年10月、本学高岡キャンパスに、「先進軽金属材料国際研究機構先進アルミニウム国際研究センター」の共同研究棟を新設移転し、オープンラボ型のアルミリサイクル研究開発ミニプラント「Plant Zero」を設置しました。

リサイクルアルミの研究推進を通じて、呉西地区から富山県、ひいては日本のアルミニウム産業の活性化に貢献します。また、建物内には、全国から共同利用・共同研究のため来学した研究者や学生が滞在し、研究を遂行することができる「共同研究室」や、学生や教員、企業の研究者が気軽に集い、情報交換やディスカッション等の交流の場となる「コラボスペース/コラボラウンジ」、地域の企業等が入居し、リサイクル等に関する共同研究を進めることができる「オープンラボ」等を設置しています*。

※オープンラボについての詳細は、33ページを参照



開所式の様子



アルミニウム溶解精錬システム
(アルミスクラップの溶解から鋳造まで一貫して行うことが可能)

データサイエンス推進事業

富山大学データサイエンス推進事業

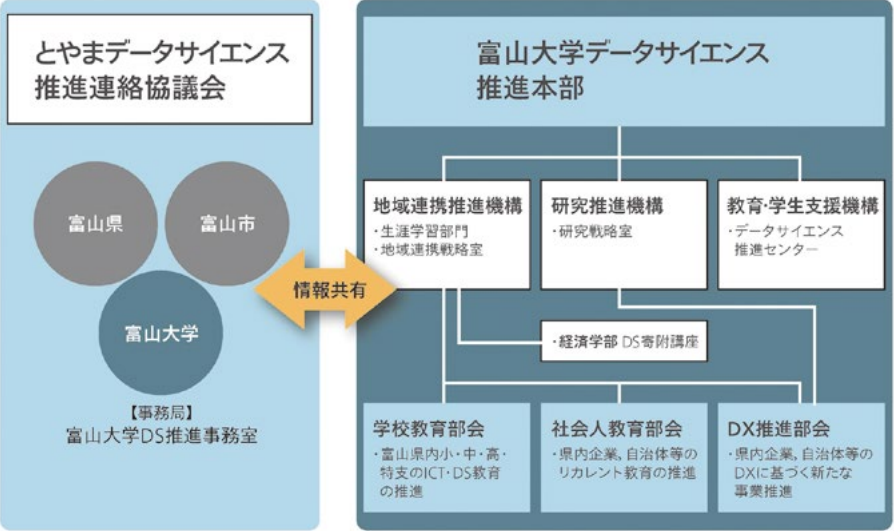
click

富山大学広報誌「まなばれ」特集記事
“いまデータサイエンスがおもしろい”

click

令和3年度より、富山県及び富山市と連携し、「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を設置しました。
(1)学校教育推進、(2)社会人教育推進、(3)産学官金連携事業推進の観点から、地域におけるデータサイエンス(以下「DS」という)・デジタルトランスフォーメーション(以下「DX」という)の普及に取り組んでいます。

富山県内データサイエンス連携組織図



「海外とのオンライン協働学習」の様子

1. 学校教育推進

県内学校(小・中学校、高校、特別支援学校)の教員、児童・生徒、保護者・PTAを対象に、ICT教育やDS教育の支援を行っています。教員がDS教育を理解し実践できるようガイドブックを作成し、様々な場面でICTの活用やデータ収集、分析の機会を提供しています。
小学校では、海外とのオンライン協働学習を通じて、児童が国や地域の特産や観光地等をパワーポイント等の資料にまとめ、米国やマレーシアの連携校とSDGsをテーマにオンラインで交流しています。高校の探究活動では、生徒自らが興味関心を持つ学校や地域、社会の課題等について、アンケートやデータの収集・分析を行い、その結果をプレゼンテーション資料やポスターにまとめ、年度末に「とやま探究フォーラム」で発表を行いました。

- 1)教員研修支援
 - ア. オンラインによる情報発信(オンラインセミナー、学校教員等の実践事例動画、大学教員のICT活用等解説動画):**735名受講**
 - イ. 学校への講師派遣(ICT・DS教育の講演、指導、高校の探究学習・課題研究の支援):**1,745名受講**
とやま探究フォーラムの支援(県内の高校21校、約190名の生徒が49のテーマを発表):**500名参加**
 - ウ. 県・市教育委員会主催の教員研修と連携:**526名受講**
 - エ. ガイドブックの作成(県内の学校教員用ガイドブックの作成・配付)
「データサイエンスにつながる学び」ガイドブックⅡ、生徒・教師のための「情報Ⅰ」実践事例集-2024
- 2)児童生徒支援(大学院生によるモデル校での教育支援):**124回**
小学校(10校)・中学校(4校)・高校(5校)でのICT・DS教育支援及び海外とのオンライン交流活動支援
- 3)保護者研修支援(ICT教育、DS教育、健康との関連など):**581名受講**



「とやま探究フォーラム」の様子

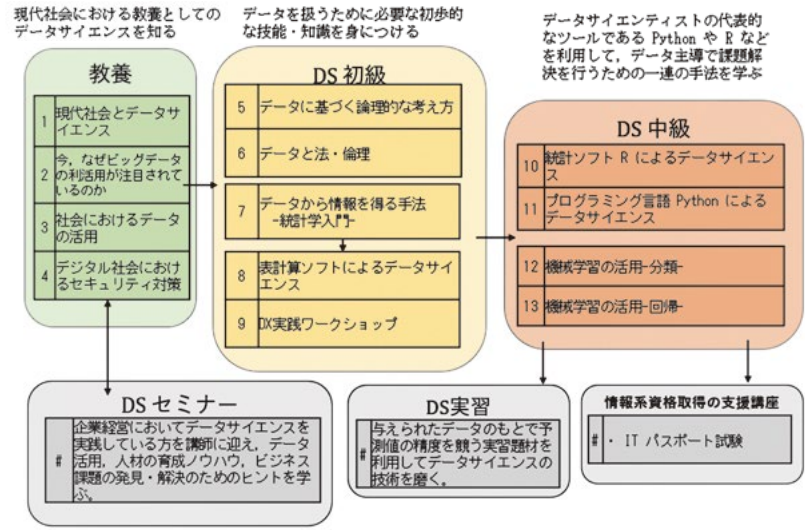


2. 社会人教育推進

県内の社会人等を対象に、レベル別(教養、初級、中級)のオンデマンド教材を作成し、「特別講座」として受講希望者に配信しています。また、国家資格「ITパスポート」取得支援の対策講座や、県内企業のデータ活用事例に焦点を当てたセミナー、統計ソフトを利用したデータ分析実習なども実施しています。
令和5年度は、公開講座と連携して導入レベルを6講座、統計ソフトSPSSやRを用いた特別実習を対面で3講座開講しました。

- 1)DS特別講座:**588名受講**
 - ①教養4テーマ、②初級5テーマ、③中級4テーマ、④導入レベルのセミナー6回、⑤ITパスポートの活用に関するセミナー2回、⑥企業や自治体におけるDS・DX活用事例1回
- 2)DS特別実習:**12名受講**
 - ①はじめての統計データ処理ーSPSSとRを使ってみようー、②時系列の関係性分析、③機械学習によるデータ解析演習
- 3)情報系資格(ITパスポート試験)取得の支援講座:**150名受講**(令和6年度は200名に増の計画)

社会人向け講座の概要



「データサイエンス特別実習」の様子

3. 産学官金連携事業推進

DX時代に求められる人材育成を目的として、自治体及び企業向けのDX学修セミナーを開講しました。また、令和4年度から令和5年度にかけて、県内の中学校・高等学校に気象計を設置し、収集した気象データを各学校の授業等で活用しています。さらに、大学の教員や大学院生が参画・支援することで、より専門的な学びを提供し、DS教育の理解・推進に繋げています。
【気象計:令和4年度・5年度に富山市内中学校に10台、県内高校に10台設置】
令和5年度は、本学所有のAIカメラや気象計のデータ、県・市所有のオープンデータ等を活用し、新たにDX実践ワークショップを開講しました。(令和6年度はDX実践ワークショップの拡充を計画しています。)

- 1)DX学修セミナー: **315名受講**
 - ①DXの定義・推進における課題・考え方を学ぶ、②DXに必要な技術、データの紹介、活用方法、③DXに向けた思考方法に関するセミナー(デザイン思考)、業種別DXの取入れ方等(④農林水産業編、⑤サービス業編、⑥人事・財務編、⑦中小企業編)
- 2)DX実践ワークショップ: **173名受講**
 - ①データ取得の方法、②③AIカメラや気象計を用いたデータ収集とデータ整理(クレンジングなど)、④⑤データ分析方法の学修と実践演習、⑥データ分析結果の評価と発表



気象計



収集した気象データ

期待される成果

社会人教育推進では、社会人を対象としたDSに関する講座の開講やリカレント教育の推進に取り組んでいます。産学官金連携事業推進では、県内企業・自治体におけるDXに基づく新たな事業の推進・支援を行っています。
3つの事業を通じ、児童生徒から社会人、学校や市町村を巻き込み、大学をうまく活用してもらうことで、県全体でDSに適応する力を底上げしたいと考えています。
大学と連携したDS人材育成が新しい事業・産業を産み出し、県民の生活レベルを向上させ、富山県全体の発展につながり、ひいては真のウェルビーイングの実現に向かうと考えています。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、石川県能登地方を中心に大きな被害が生じました。富山県でも最大震度5強を観測し、家屋の損壊等多大な被害が生じました。犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

富山大学では被災された地域の方及び学生への支援を行うとともに、被災地での復旧支援を行いました。今後も多方面から復興をサポートし、調査研究活動、人材育成において自然災害への対応を続けていきます。

1. 本学の被害状況

学生/教職員	安否確認システム等により確認、負傷者8名(いずれも軽傷)
施設	建物内壁面亀裂、窓ガラス破損
設備	研究用機器の故障
附属図書館	図書資料の落下により、1月8日まで全館臨時休館
授業	冬季休業期間終了後の1月9日に通常通り授業開始



中央図書館(五福キャンパス)では4～6階を中心に10万冊程が落下



本学の対応状況

2. 本学の対応

避難者の受入れ

一時避難場所として、五福キャンパスに約30人、杉谷キャンパスに約200人の避難者を受入れました。(翌日までに解消)

被災学生、志願者への支援

被災学生に対し、入学料や授業料等の免除を実施しています。
また、被災により学生生活の継続に支障をきたした学生が早期に通常の学生生活に復帰できるよう、災害対応支援金給付事業を設けています。なお、この支援金の財源は富山大学基金を活用しています。

入学検定料免除 15人、入学料免除 7人、授業料免除 23人、災害対応支援金給付(6月時点) 114人

附属病院 DMAT 等派遣

地震発生翌日から現地に医療スタッフを派遣し、急性期における被災地の病院内での診療支援、現地避難所支援、市の保健医療福祉業務本部の立ち上げと運営、被災患者の搬送業務などにあたりました。

詳しくは27ページをご覧ください。

学生ボランティア派遣

発災3か月後から被災地での家屋の片付けや災害ゴミ搬出、避難所となった小学校でのアートボランティア、漆工房での漆器洗浄及び整理に従事してきました。

参加した学生らからは「被害状況はテレビを通して見ていたが、現地で話を聞かないとわからないこともあった。被災者の方の話を聞くと何を言えば相手のためになるのかわからず何も言えなかった。」といった感想がありました。

被災地では災害直後だけでなく、長期的な復興支援が必要です。本学も、学生の被災地の力になりたいという思いを尊重し、ボランティア活動を推奨し継続的に支援していきます。



被災家屋の片づけ



漆工房での漆器洗浄・整理



避難所でのアート作成

輪島漆芸技術研究所学生の受入れ

芸術文化学部では、被災した「石川県立輪島漆芸技術研修所」の研修生8名を受け入れました。

輪島漆芸技術研修所には、約40名の研修生が在籍しており、最終学年の学生は卒業制作の最終段階を迎えていましたが、地震の影響で制作継続が困難となっていました。受入れは施設の提供、漆芸教員の指導協力、宿泊場所の確保などの体制整備を行った上で研修所に打診し、実現しました。

研修生は3月末まで高岡に滞在し、卒業作品を仕上げ、5月7日に卒業証書授与式を迎えることができました。卒業した研修生の活躍により輪島漆器が発展していくことを願っています。

アルスの礎 ～富山大学知の冒険者たち～
#25輪島塗に寄り添う(R6年8月4日放送)



click



制作の様子



齋藤学長、林技藝院センター長と
富大受入研修生4名

記事紹介

輪島漆芸技術研修生を受入れ



click

卒業証書授与式を举行



click

3. 調査・研究

地殻変動から地震発生メカニズムを解明

▶ 安江健一准教授・立石良准教授(学術研究部都市デザイン学系)

地震発生翌日から現地に入り、海岸隆起や内陸の地表変状の緊急調査を行いました。調査では、震源域南西部にあたる能登半島北西部の海岸で少なくとも約4メートルの顕著な隆起が生じたと推定されました。また、内陸の若山川沿いの東西約2kmにわたって、最大上下変位量約2m、左横ずれ変位量約1.2mを示す地表変状が認められ、今回の地震の際に形成された地表地震断層と推定されています。

都市デザイン学部
新着情報



click



地表地震断層と思われる地表変状。
人の背丈と同じくらいの鉛直変位が認められた

海洋調査から見てきた生態系への影響

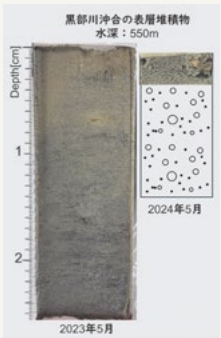
▶ 張勁教授(学術研究部理化学系)

地震発生後1月から6月にかけて、富山湾の海底地すべり及び周辺海域で海水や堆積物、プランクトンなどを採取し、地震と津波による海洋環境や生態系への影響を調査してきました。
その結果、富山湾の水深1,300メートルの海底谷では、最新の地層が約15センチメートル堆積していることが確認され、海底近くでは海水の濁度が高く、海中の酸素濃度が大幅に低下していることも判明しました。
富山県内では、今シーズンのシロエビとベニズワイガニが不漁となっており、原因について、海洋生物が地すべりなどの影響で堆積物に埋もれた可能性や、生息環境の悪化によりシロエビやベニズワイガニが別の生息環境に移動した可能性があることがわかりました。

富山大学プレスリリース
地震発生域の海洋地球科学総合調査について



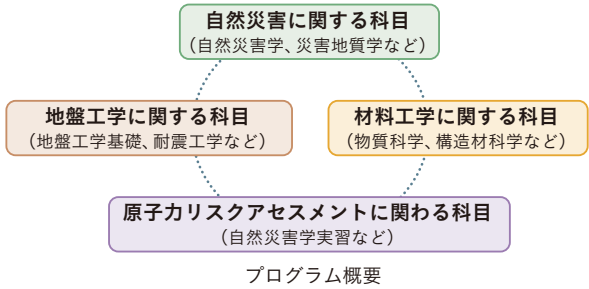
click



4. 自然災害に対応する人材育成

都市デザイン学部の「地震、津波、火山等に関わる自然災害に対する原子力リスクアセスメントに資する人材育成プログラム」が、原子力規制庁公募の「令和6年度原子力規制人材育成事業」に採択されました。

このプログラムでは、学生が地震、津波、火山等自然災害の発生メカニズムや、構造物の設計技術、材料の強度・劣化の基本的な知見を修得します。また津波・海岸隆起等が発生した能登半島でフィールドワークを行うとともに、原子力と放射線の基礎知識について学ぶことで、自然ハザードに対する原子力リスクアセスメントに関し幅広い視点から分野にまたがって議論できる人材を育成します。



フィールドワークのイメージ

国際ネットワークの構築・強化

国際ネットワークの構築・強化の一環として、令和4年度にリエゾンプロフェッサー制度、令和5年度にリエゾンオフィス制度を創設しました。

リエゾンプロフェッサーとは、富山大学を卒業・修了し海外の研究機関に所属しており、本学の教育研究活動の国際化推進に協力いただける方に「富山大学リエゾンプロフェッサー」の名称を付与するものです。また、リエゾンオフィスは、リエゾンプロフェッサーが所属する海外の教育研究機関に本学の国際協力拠点として設置するものです。

現在、世界各国の様々な分野の研究者計28名がリエゾンプロフェッサーとして活動しています。

今後、リエゾンオフィスを交流拠点としてリエゾンプロフェッサーと連携し、これまでの交流をさらに深め、留学生の受入・派遣の促進、共同研究の拡大・強化、新規事業の開拓等、発展的に進めていきます。



トピック

キングモンクット工科大学トンブリ校とアルミニウム分野での国際共同研究が実現

タイ・キングモンクット工科大学ノースバンコク校に所属するリエゾンプロフェッサーの協力により、令和6年7月に国際共同研究推進のためのタイ・バンコク訪問が実現しました。

本学から学長、研究担当理事、先進アルミニウム国際研究センター長及びアルミニウム研究分野の研究者が、キングモンクット工科大学ノースバンコク校、キングモンクット工科大学トンブリ校及びタイ国立金属材料技術研究センターを訪問し、各機関において、アルミニウム分野での国際共同研究の可能性を協議するため会議を開催しました。

双方が研究紹介を行い、対面による研究者同士の意見交換が実を結び、キングモンクット工科大学トンブリ校と新たにアルミニウムのリサイクルに関する共同研究を進めること及び外部資金獲得のための申請を行いました。

また、キングモンクット工科大学ノースバンコク校及びキングモンクット工科大学トンブリ校とは、それぞれ学術交流協定を締結し、現地にて、留学生のリクルート活動を行い、その結果2名の学生が10月から大学院へ入学することになりました。



キングモンクット工科大学トンブリ校にて会議



キングモンクット工科大学ノースバンコク校にて会議

トピック

チェコ共和国、インドネシアにリエゾンオフィス開所

令和5年度、学長、国際担当理事をはじめとした関係教職員が、チェコ共和国の西ボヘミア大学及びチェコ科学アカデミー(10月)、インドネシアのハサヌディン大学及びジェンデル・ソディルマン大学(11月)を訪問し、リエゾンオフィスの調印式及び開所式を行いました。また同時に大学間学術交流協定を締結しました。

チェコ共和国では、リエゾンプロフェッサーら関係者が集まり、令和4年度に本学で開催した第1回に引き続き、「第2回リエゾンプロフェッサー・アセンブリー」を開催し、今後の交流・連携の可能性等について活発なディスカッションが行われました。



ジェンデル・ソディルマン大学に
富山大学リエゾンオフィスを設置



第2回富山大学リエゾンプロフェッサー・アセンブリーを
チェコ科学アカデミーで開催

コラム 国際共同研究の推進 -国際共著論文数国内10位(国内1位の小分野3つ)-

文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)が発表した「研究論文に着目した日英独の大学ベンチマーキング2023」によると、国際共著論文数(2017-2021年)のランキングにおいて、富山大学は179のサブジェクトカテゴリー(小分野)のうち3分野(「薬理学・薬学」「化学・医薬品」「統合医療・代替医療」)で国内大学1位となりました。1位の数としては国内10位に位置します。

同調査では国際共著ネットワークが拡大する中、国際共同研究をリードできる研究者が自大学にすることが重要であると示唆されています。リエゾンプロフェッサー制度・リエゾンオフィス制度等をより一層充実させ、海外研究機関との共同研究を促す体制を強化することで国際的にインパクトの高い研究を推進します。

大学名	1位の数	小分野名(5件まで)
東京大学	74	天文学・宇宙物理学、材料化学・総合、複合科学、物理学・応用、物理学・素粒子・場など
京都大学	20	化学・総合、動物学、化学・有機、水資源、進化生物学など
北海道大学	15	生態学、微生物学、感染症、獣医学、ウイルス学など
九州大学	11	農学・総合、エネルギー・燃料、工学・機械、力学、熱力学など
東北大学	10	化学・物理、冶金・冶金工学、神経科学、工学・総合、結晶学など
大阪大学	5	バイオテクノロジー・応用微生物学、物理学・流体・プラズマ、工学・製造、オートメーション・制御システム、産科学・婦人科学
早稲田大学	5	数学・学際的应用、スポーツ科学、心理学、計算機科学・ハードウェア・アーキテクチャー、心理学・実験
名古屋大学	4	医学・研究・実験、老年医学・老年学、病理学、交通運輸
東京医科歯科大学	3	歯科学・口腔外科・口腔内科、材料科学・生体材料、眼科学
富山大学	3	薬理学・薬学、化学・医薬品、総合医療・代替医療

※表は科学新聞2024年7月5日号より引用

学生の国際交流

幅広い教養及び柔軟な思考力並びに国際的な視野を持つ人材育成を目的に、学術交流協定校との交換留学をはじめとして、短期海外語学研修、オンライン英語研修など、学部学生を対象に多様な海外派遣プログラムを企画・実施しています。

トピック

学部1年次対象短期海外英語研修

令和3年度から、学部1年次生を対象に希望者60名を選抜し、海外英語研修を実施しています。

初年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの実施となりましたが、令和4年度に初めて現地での対面研修を行い、57人が参加しました。マレーシアのトゥンクアブドゥルラーマン大学及びフィリピンのアテネオデマニラ大学にて、約2週間の間、4技能-「聞く(リスニング)」「話す(スピーキング)」「読む(リーディング)」「書く(ライティング)」-を習得する英語研修、現地学生との交流、現地の文化等を学習する研修を行いました。参加学生は、英語力向上のみならず、現地学生との交流や現地の文化に触れ、貴重な体験となりました。

令和5年度には、研修先をマレーシアのトゥンクアブドゥルラーマン大学に加えて、台湾の開南大学、ニュージーランドのオークランド大学と3カ国に拡大、期間も2週間〜4週間とし、学生の自律的な研修目標にも対応できるよう研修内容の選択肢を広げました。

対面研修2年目となる令和5年度は、前年度の報告会と合わせて実施した説明会に約200人の参加者があり、学生の興味・意欲が高いことがうかがえました。参加申請も、100人を超える学生から応募があるなど、学生の英語学習へのモチベーション向上に資する取組となっています。

なお、本研修は富山大学基金を活用し実施しています。



マレーシア・クアラルンプール
ペトロナスツインタワー前



ニュージーランド・オークランド大学にて



台湾・開南大学にて

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進センターは、ジェンダー平等をより一層押し進め、多様性の尊重や男女共同参画の推進とともに、ライフイベント(妊娠・出産・育児・介護等)やワーク・ライフ・バランスに配慮した様々な支援や啓発活動を行っています。

富山大学ダイバーシティ推進センター



click



1. 富山大学学長賞「未知に挑む女性研究者賞」

本学における女性研究者の優れた研究と高い将来性を讃えるため、平成29年度に創設。人文・社会科学、芸術及び自然科学の各分野において優れた研究成果を挙げ、将来的に国内外で当該研究分野を牽引していく高いリーダーシップが期待される女性研究者を顕彰することにより、女性研究者の研究意欲の向上、本学、ひいては我が国の学術研究の将来に資する人材の育成等を目指すものです。

〈令和6年度表彰〉

女性研究者部門、女子学生部門各1名を表彰しました。女性研究者のロールモデルとして今後の活躍が期待されます。

「未知に挑む女性研究者賞」

【女性研究者部門】工学部研究員 石 瑩
【女子学生部門】生命融合科学教育部博士課程2年 平山 瑠那
(奨励賞) 理工学研究科 博士後期課程1年 隋 清雅



2. 理工系裾野拡大事業「スマート・ポリネーター事業」

本事業は、本学的女子大学院生・学部生を「スマート・ポリネーター」として任命し、女子中高生及び本学女子学生に向けて科学の魅力・研究の面白さを伝える次世代育成型啓発活動を行うものです。理工系女性研究者の育成と次世代を担う女子中高生に対する理工系進路選択を促すことを目的としています。

〈令和5年度開催〉

スマート・ポリネーターが企画・運営する「ハッピー・キャリア・ミーティング～薬学分野で活躍中の女性ロールモデルから学ぼう！～」を開催しました。2名の講師からご講演を頂くとともに、座談会形式の進路相談会を行い、高校生や大学学部生・大学院生、保護者、高校教員等、約50名が参加しました。

講演 バイオジェン・ジャパン(株) 岡崎紀子氏

「自分の人生は自分が運転する！」

瑠璃光薬局薬剤師 大溝瀬璃奈氏(本学薬学部卒業生)

「地域に根ざした薬局で働く楽しさ」

参加者からの声

・薬学部卒には様々な働き方がることが分かって、進路選択を考えるきっかけとなった。
・座談会でみなさんが刺激を受け合っている姿が印象的だった。

コラム 理工系女子応援！院生ライフスタイル紹介動画

女子大学院生の研究活動やライフスタイルを紹介する動画を発信しています。大学院生は留学生の割合が高いため、3ヶ国語(日本語・英語・中国語)で作成しています。



click



3. 研究サポーター制度

研究者の妊娠・育児・介護等のライフイベントと教育・研究活動の両立を支援することを目的とし、本学大学院生等を研究サポーターとして配置する費用を助成しています。研究サポーターは、データ集計、学会発表準備、授業準備等を担っています。令和5年度は8名の教員が利用しました。

4. 介護支援

介護相談

富山市内の地域包括支援センターと連携し、随時介護相談を受け付けています。

介護図書展示貸出

各キャンパスの附属図書館と連携し、介護福祉関連書籍の企画展示及び貸出を行っています。

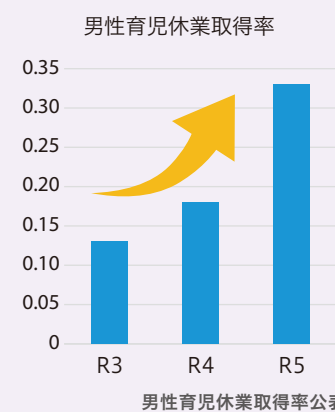
介護セミナー

認知症等、介護が必要な方が身近に居る、また自身も介護が必要になった時に備え、教職員、学生に向けて介護セミナーを行っています。

男性育児休業取得率上昇中！

男性育児休業取得者の育休インタビュー記事をホームページやニュースレターに掲載し、体験者の声を伝えています。令和5年度には目標としていた30%を超える男性育児休業取得率となりました。

今後も切れ目のない子育て支援を推進します。



男性育児休業取得率公表



click



育児休業取得にあたっての職場エピソード

「育休とらないの?」、「今回も育休とる?」といったように上司から勧められたり聞いてくれたりする環境に救われました。同じ男性職員からの「今度育休の取り方とか教えてよ」といった肯定的な意見も励みになりました。

男性育児休業取得者インタビュー



click

DX推進 -教育・研究・事務の変革を目指す-

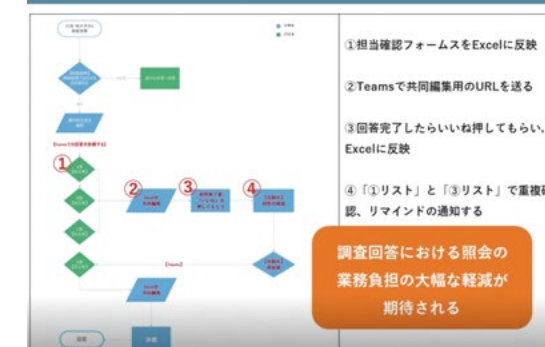
デジタル技術の活用により、大学の教育、研究、業務、さらには組織やプロセス等を変革し、新たな価値を創造することを目的とした「富山大学におけるDX推進の基本方針」に基づき、「教育」「研究」「事務」の各領域において部会を設けて推進活動を行っています。

その一環として、事務の業務改善(平準化・効率化・高度化)活動を進めています。

令和5年度は、学内のICT人材の育成を図り、MicrosoftクラウドアプリなどのITツールを用いた業務改善に取り組みました。手作業で行っていた学内手続きに関する申請受付から集計までの一連の業務を自動化するツールや、電話やメールで対応していた問い合わせや面談予約をフォームを用いた予約ツールを作成するなど、業務改善を推進しました。

また、大学業務における生成AIの利用にあたって、ガイドラインの制定及び教職員研修を行いました。生成AIの概要をはじめ、メールや配布資料のドラフト作成、資料の要約、最新教育関連情報の収集など、実務に活かすプロンプトの実例紹介から実際にプロンプトを作成するワークショップを行い、業務への活用を検証しています。

3.MSクラウドアプリによる業務改善点



1. 令和6年能登半島地震への対応

県の災害拠点病院として、DMAT(災害派遣医療チーム)の出動や他院での診療の継続が困難となった患者さんの受入れなど、被災地の病院に対する医療支援を行いました。

DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣状況

第1隊【1月2日(火)～1月4日(木)】	派遣人数: 4名	活動内容: 柳田温泉病院内で本部業務やERの診療支援
第2隊【1月5日(金)～1月8日(月)】	派遣人数: 5名	活動内容: 珠洲市総合病院内で本部業務やERの診療支援
第3隊【1月9日(火)～1月13日(土)】	派遣人数: 4名	活動内容: 穴水町保健医療福祉調整本部の立ち上げと運営および高齢者施設の巡回・診療
第4隊【1月18日(木)～1月23日(火)】	派遣人数: 5名	活動内容: 石川県庁における本部業務及び搬送業務

その他、富山空港へのSCU(広域搬送拠点臨時医療施設)隊の派遣、日本環境感染学会のDICT(災害感染対策チーム)としての現地避難所支援、災害支援ナースの派遣等を実施しました。

- 当院の被災患者受入れ状況(令和6年2月20日現在)
54名(うち入院患者 40名(能登地方からの搬送32名を含む。))
(うち重傷患者 7名)



DMAT 第1隊出発



被災病院への物資輸送



本部活動の様子



記録業務の様子



附属病院の支援状況

2. 救急医療体制の強化

令和5年3月に土井 智章 災害・救命センター長(救急科教授)が着任し、令和5年4月より、24時間365日で常時3～4名の救急担当医をER(救急外来)に配置する、全診療科応援体制を開始しました。

富山大学附属病院の救急医療は、多様な専門性を持った医師たちが全面的に支援しています。

また、本院は、県内唯一の「日本救急医学会指導認定施設」であり、県内で活躍できる救急医の養成に積極的に取り組んでいます。今後は、北陸三県で唯一の「高度救命救急センター」の設置を目指し、さらなる救急医の養成に取り組めます。

3. 医師の働き方改革の推進

医師の長時間労働を是正し、医師が健康に働き続けられる環境を整備することで、患者さんに提供する医療の質・安全を確保し、将来にわたって持続可能な医療提供体制を維持するための取組を実施しています。

令和5年度においては、令和15年度末までに段階的に時間外労働時間を減少させる「医師労働時間短縮計画」を作成し、富山県から「特定労務管理対象機関」に指定されました。さらに変形労働制の対象を拡大し、より柔軟な働き方が可能となり、救急医療や地域医療提供体制の維持のための医師派遣にも対応しやすくなりました。



災害救命センター



4. 診療機能の強化

IBD(炎症性腸疾患)センターの設置

渡辺 憲治 IBDセンター長(炎症性腸疾患内科教授)のもと、富山県及び北陸地方におけるIBD(炎症性腸疾患)の医療の中心拠点として、令和5年5月に設置しました。

当センターは、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病、家族性地中海熱遺伝子関連腸炎などを対象に、日本炎症性腸疾患学会指導施設としてガイドラインや診療指針作成を多数担当する経験を活かし、専門性の高い炎症性腸疾患診療に必要な地域有数の先進的医療体制を整備しています。

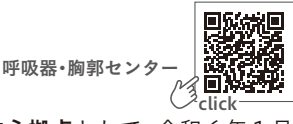


IBDセンター

呼吸器・胸郭センターの設置

土谷 智史 呼吸器・胸郭センター長(呼吸器外科教授)のもと、富山県内の呼吸器疾患・胸郭疾患の医療の中心拠点として、令和6年1月に設置しました。

当センターでは、治療に難渋する難治例や特殊な症例を積極的に受入れること、漏斗胸を中心にした胸郭形成の実績を積み重ねること、北陸地方における呼吸器・胸郭疾患治療の基幹施設を目指します。さらに臨床研究や基礎研究、関連する研究会を積極的に行い、患者満足度の高い包括的医療、医学教育と育成、最先端の研究の場を提供していきます。



呼吸器・胸郭センター

5. 医療設備の充実

令和5年6月	無菌治療室ユニットの運用を開始
令和6年1月	これまでの手術用ロボット da Vinci Xiに加え、新たに da Vinci Xを増設
令和6年3月	生体情報管理・モニタリングシステムを導入
令和6年3月	遠隔操作密封小線源治療システム(RALS)を導入



無菌治療室ユニット



da Vinci X



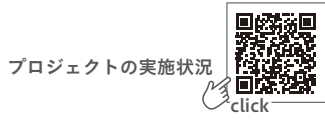
遠隔操作密封小線源治療システム

6. クラウドファンディングの実施

～「富山大学附属病院で手術を受けてよかった」と感じられる手術室にしたい!～

富山大学附属病院では、「患者さんがより安心して手術を受けられる環境整備」を目標に、富山大学初の試みとなるクラウドファンディングに挑戦し、総額1,359万円の寄附金が集まりました。(実施期間:令和6年7月29日(月)～9月26日(木))皆様からの温かいご支援を活用し、下記プロジェクトを順次実施する予定です。

- 手術室エントランスを飾る明るい雰囲気壁画(ホスピタルアート)制作
- 入室前に見ていただく動画コンテンツ作成、手術室体験ができるVRゴーグル導入
- 手術室看護師のリクルート動画、ホームページの作成
- 未来の医療人(小中学生)向けセミナーの定期開催
- 富山大手術室で働く「人」の魅力に迫る広報誌『富大オペ室STORIES』の作成



プロジェクトの実施状況

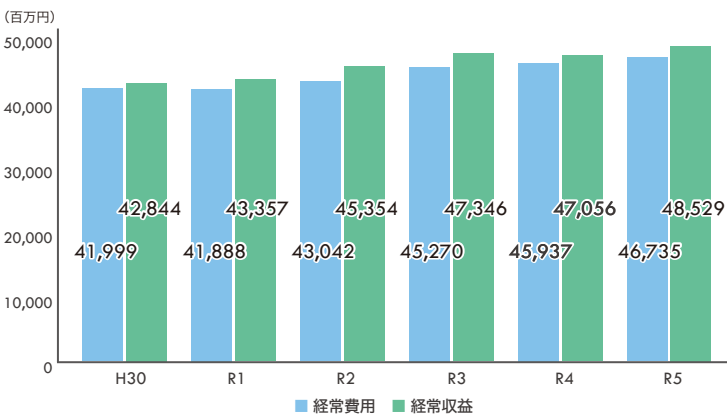


ホスピタルアートのイメージ

経常費用と経常収益

事業規模の拡大に伴い、経常費用、経常収益ともに増加しています。

運営費交付金の交付額は近年概ね横ばいで推移しており、教育・研究・診療・社会貢献活動等を持続的に行之、継続的に発展させるためにも、自己収入や外部資金の獲得に努めています。



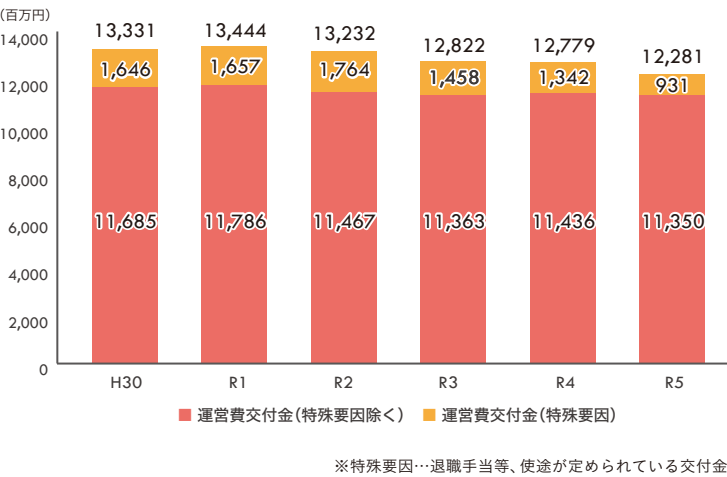
運営費交付金の受入額

国立大学法人は、安定的・持続的に教育研究活動を行うために、国から運営費交付金が交付されています。

運営費交付金の確保にあたっては、

- ①大学が自ら立てた目標の達成状況による配分
- ②他大学も含めた客観的な共通指標による配分

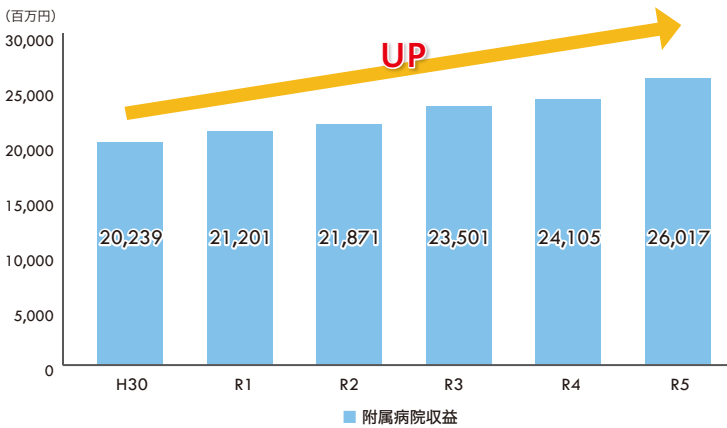
が行われ、競争的環境にあることから、教育研究活動に積極的に取り組み、確実な成果を挙げていくことが求められています。



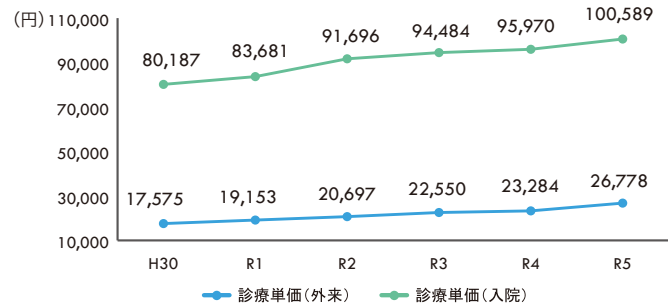
附属病院収益

国立大学附属病院は、高度な医療の提供、新しい医療技術の研究・開発及び優れた医療人材の養成・輩出を担う地域の中核的な医療機関として重要な役割を果たしています。

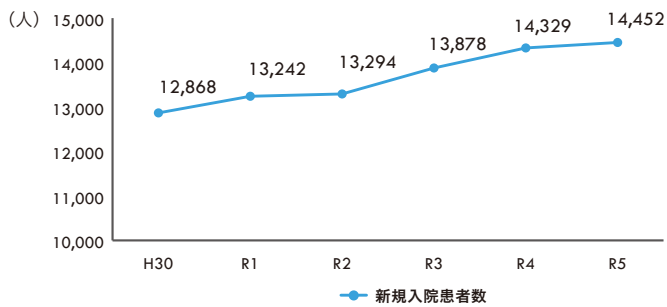
物価や光熱費の高騰等による厳しい病院経営が続く中、各大学が経営基盤の安定化に努めています。



診療単価の推移

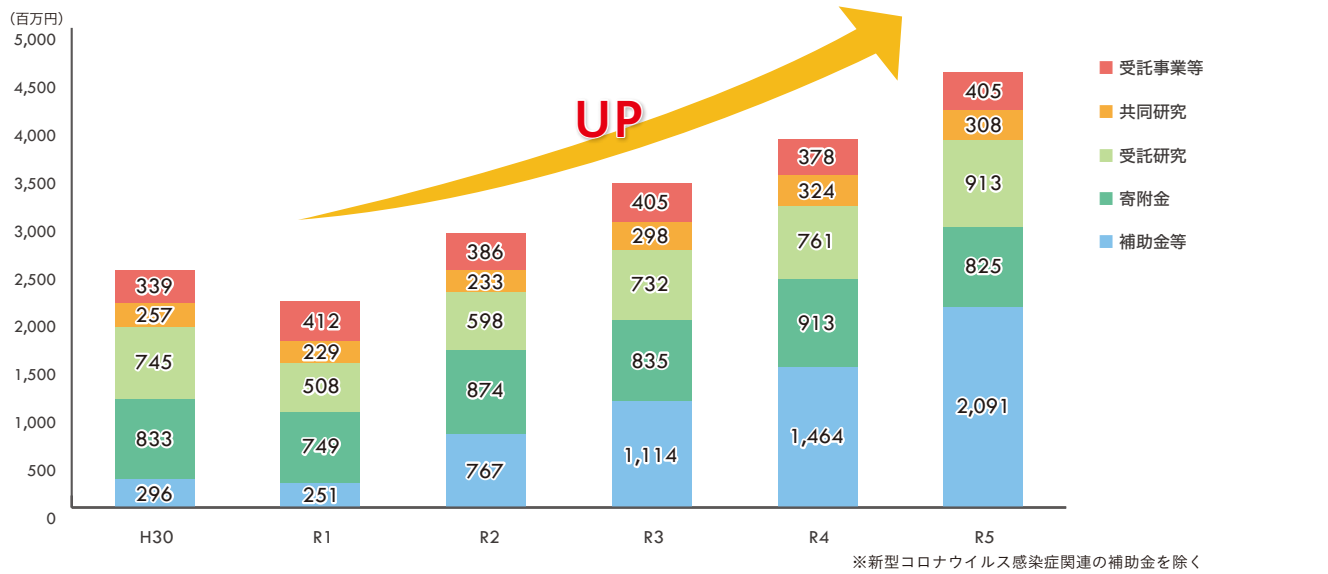
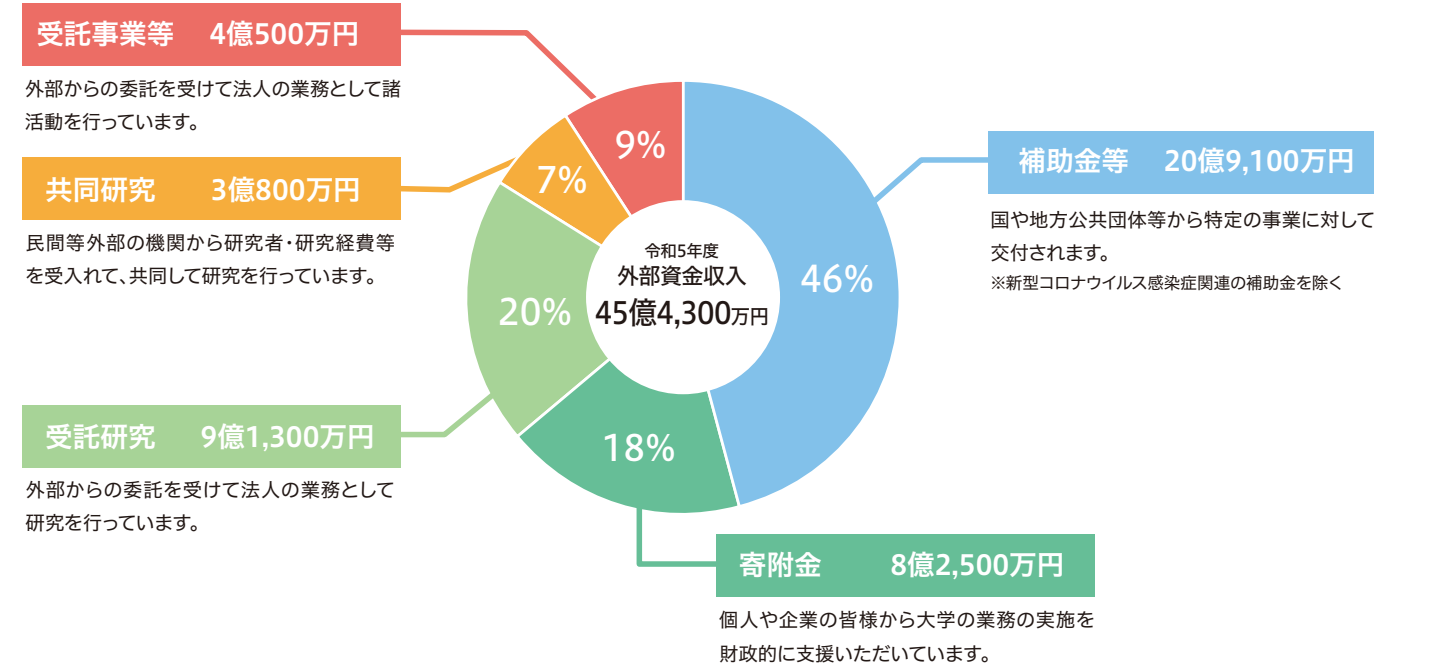


新規入院患者数



外部資金の受入額

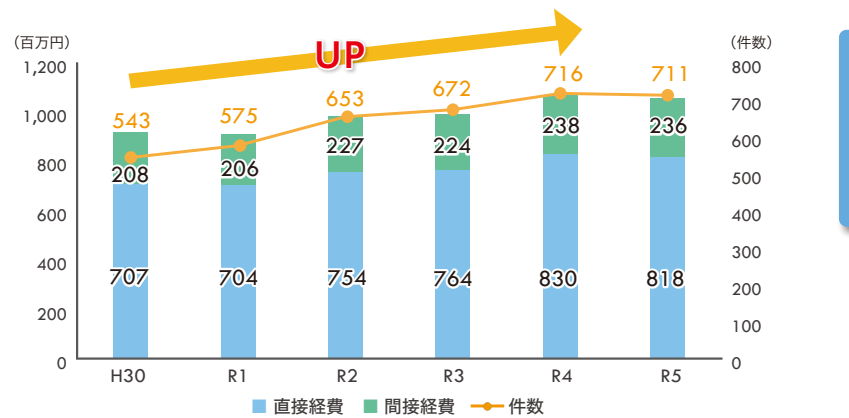
国立大学法人では、安定した教育研究活動を維持していくために、外部資金獲得の重要性が増しており、各大学が外部資金獲得に努めています。また、外部資金に伴う間接経費は、教育研究活動の環境改善等の基盤的な経費として、重要な財源となっています。



科学研究費補助金の受入額

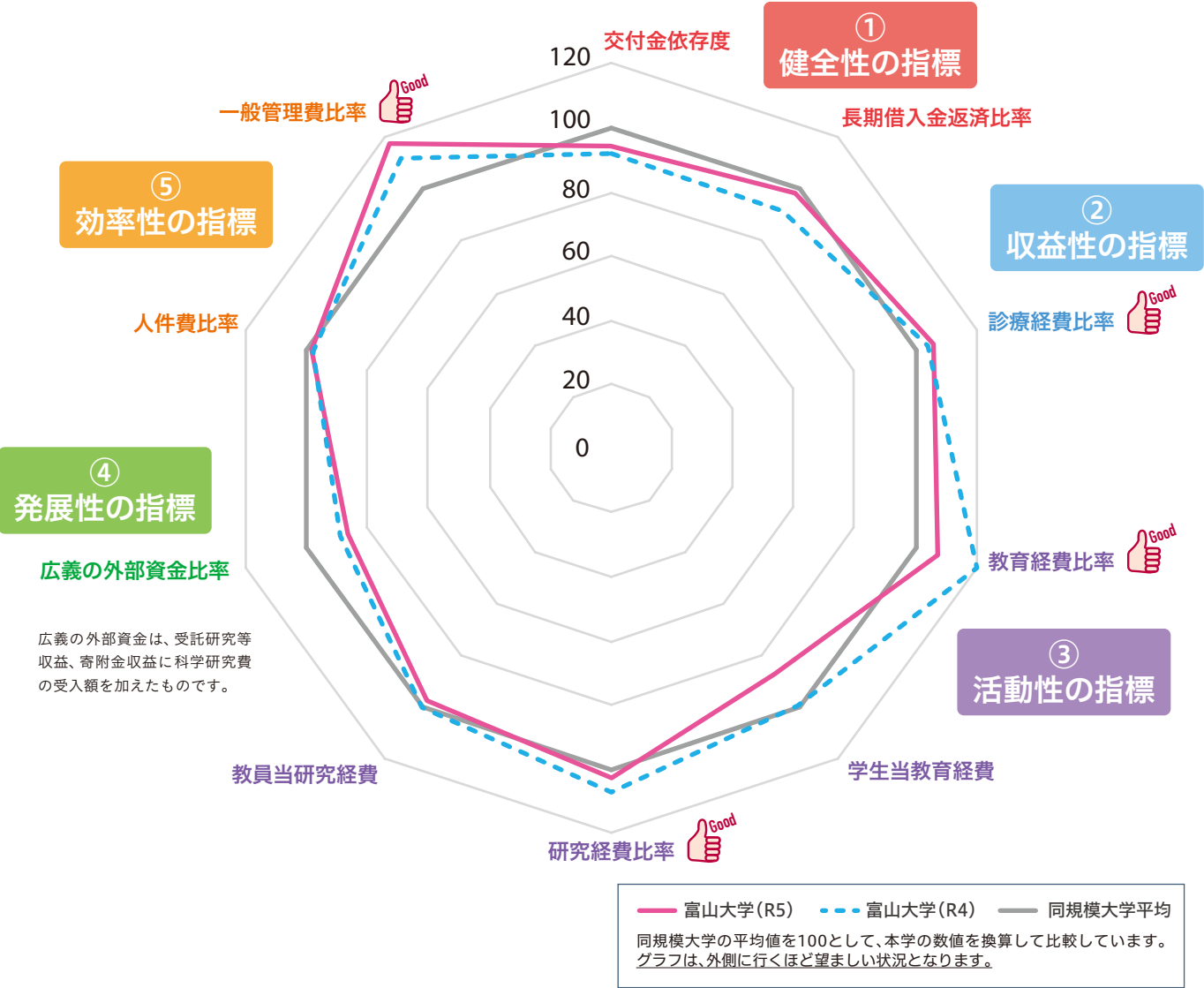
外部資金とは別に、国から研究者個人等に対して支給される補助金として、科学研究費補助金があります。大学に交付されるものではありませんが、大学の研究基盤における大きな財源となっています。

また、間接経費は、科学研究費補助金を獲得した研究者の研究環境の改善や大学全体の機能向上に活用しています。



財務指標による比較

財務指標とは、財務諸表の計数を用いて計算、数値化したもので、国立大学法人の財務状態や運営状況を総合的に把握するための指標です。同規模大学^(※注)の平均値を100として、本学の数値を換算して比較しています。グラフは外側に行くほど望ましい状況となります。

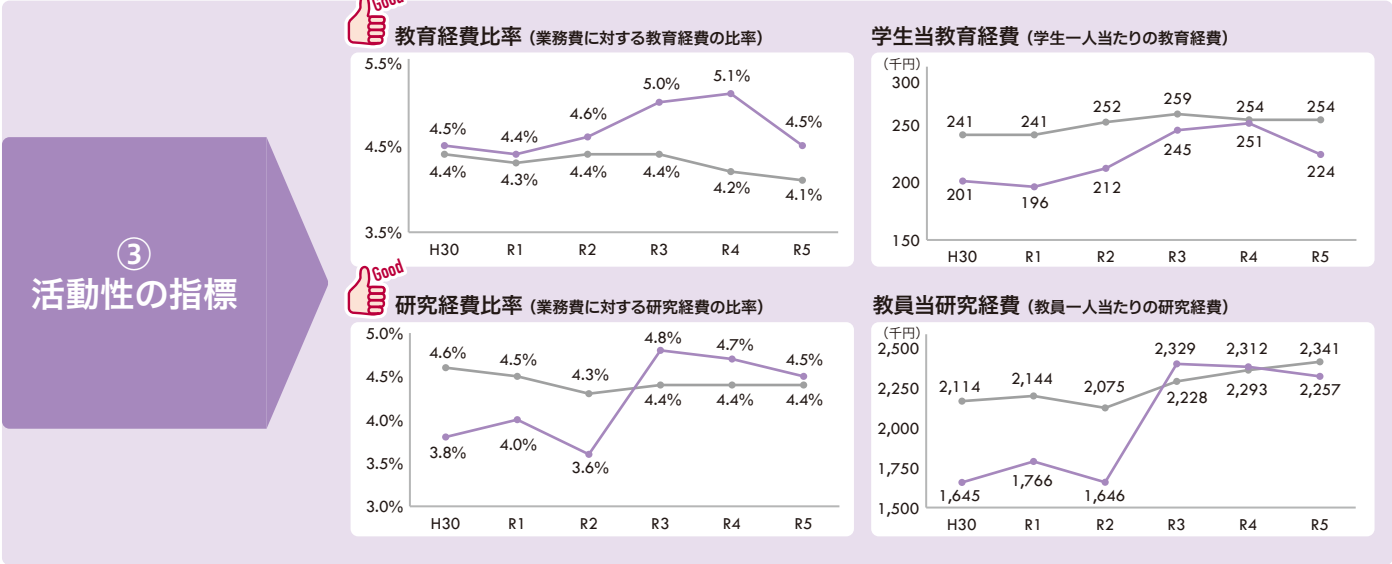


(※注)同規模大学とは
文部科学省の定める国立大学法人の分類の中で、「医科系及びその他の学部で構成され、学生収容定員が1万人未満、学部数が10学部未満の国立大学法人」であり、以下の24大学が該当します。
弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

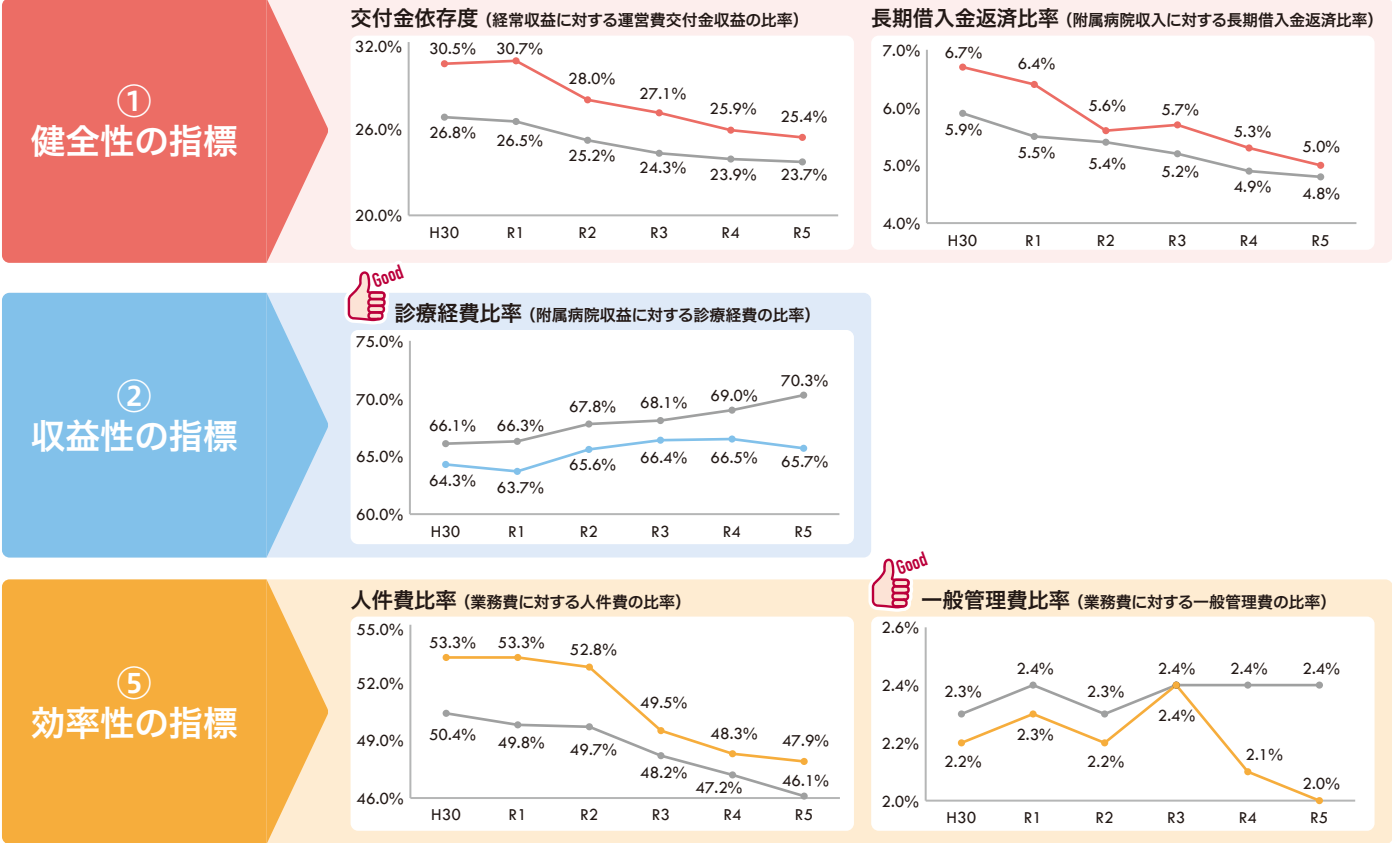
富山大学の傾向

- ・教育経費比率は同規模大学の平均より高い傾向にありますが、学生当教育経費は平均より低く、さらなる奨学制度や学生サービスの充実等を目指して参ります。
- ・広義の外部資金比率は同規模大学の平均より低く、引き続き、外部資金の獲得増に努め、財務健全化を図っていきます。
- ・診療経費比率及び一般管理費比率は同規模大学の平均より低い傾向にあります。これは、医療材料等の価格交渉や経費節減の取組によるものであり、今後も継続して、なお一層の効率的な管理運営に努めて参ります。

数値が高い方が望ましい財務指標の推移



数値が低い方が望ましい財務指標の推移



財務トピック

多様な財源の獲得に向けて

●ネーミングライツ事業の開始

令和5年度に、本学が所有する施設等への命名権を契約により事業者に付与し、事業者から得る対価を活用して教育研究環境の向上を図ることを目的に、ネーミングライツ事業の公募を開始しました。

本学との契約により、事業者には本学の施設等に事業者の名称、商標名、ロゴ・シンボルマーク又は愛称等を決定する命名権を付与し、事業者は、学内外での認知度を高めることが期待できます。

令和6年4月より運用を開始し、3社がネーミングライツパートナーとして参加いただいております。

※富山大学ネーミングライツ事業について



金森産業ホール



スギノマシンラウンジ



ネーミングライツ事業感謝状授与式



isoft #NO LIMITS ゾーン

●軽金属材料共同研究棟オープンラボの開設

令和5年度の軽金属材料共同研究棟の竣工に合わせ、アルミリサイクルに関する研究を推進するにあたり、地域の企業や国内外の研究機関と共同研究を推進するためのオープンラボを整備しました。

令和6年4月現在で、4社の企業がオープンラボに入居し、共同研究を進めています。

オープンラボは年間使用料を設定し、継続的な使用料収入を建物全体の維持管理経費に使用する予定です。

オープンラボの入居により

- ・研究棟に整備された実験・分析機器等を随時利用(※注)できる環境
- ・研究棟に設けられたコラボラウンジ、ステップラウンジ等により、学内外の研究者・学生との交流による意見交換、人事交流や共同研究等の機会の増加
- ・隣地の富山県産業技術研究開発センターと設備機器利用、研究開発支援において連携しやすい環境

などを享受できます。

(※注)利用には審査等があり、別に利用料が必要になります。

※アルミリサイクルの研究については17-18ページにて詳しく紹介しています。

※オープンラボの入居について興味のある方は以下のメールアドレスにご連絡ください。

富山大学先進アルミニウム国際研究センター arc@sus.u-toyama.ac.jp



黒田講堂

本学の施設利用について

本学の行事、授業及び課外活動に支障がない限り、公共的な行事及び一般市民の方々の営利を目的としない行事などに本学の講義室、体育館や黒田講堂等を利用することができます。

※本学の施設利用について



click

財務諸表

●貸借対照表の概要

貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、期末(令和6年3月31日)におけるすべての資産、負債及び純資産の残高を表すものです。

(百万円)				
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
【資産の部】	85,917	85,931	85,719	▲ 211
I 固定資産	69,737	69,350	68,171	▲ 1,179
1 有形固定資産	65,771	64,391	62,743	▲ 1,647
土地	22,591	22,591	22,591	-
建物	29,270	28,200	26,252	▲ 1,948(※1)
建物	62,064	63,262	64,479	1,217
減価償却累計額等	▲ 32,794	▲ 35,061	▲ 38,227	▲ 3,165
構築物	1,519	1,354	1,221	▲ 133
構築物	4,264	4,281	4,320	39
減価償却累計額等	▲ 2,744	▲ 2,926	▲ 3,099	▲ 173
工具器具備品	6,027	5,700	5,980	279
工具器具備品	28,255	29,098	30,813	1,715
減価償却累計額	▲ 22,228	▲ 23,397	▲ 24,833	▲ 1,436
図書	6,145	6,098	6,086	▲ 12
その他の有形固定資産	216	444	611	167
2 無形固定資産	2,555	2,043	1,517	▲ 526
3 投資その他の資産	1,410	2,915	3,910	994(※2)
II 流動資産	16,179	16,580	17,548	967
現金及び預金	10,050	10,718	11,640	922
未収附属病院収入	4,687	4,552	4,584	31
その他の未収入金	823	776	802	25
有価証券	300	199	200	0
その他の流動資産	317	332	320	▲ 12
資産合計	85,917	85,931	85,719	▲ 211

(注)令和4年度に負債が大きく減少し、純資産が大きく増加しています。これは、国立大学法人会計基準の改訂により資産見返負債が廃止され、令和4年度期首に資産見返負債を臨時利益に振替えたことが影響しております。

令和4年度と比較した令和5年度の主な増減要因

(※1)建物	軽金属材料共同研究棟の新営及び薬用植物園の改修等により増加しましたが、減価償却に伴う減少が上回ったことから減少しています。
(※2)投資その他の資産	自己収入の増加を図るため、計画的な資金運用に基づいた満期保有目的債券の購入により増加しています。

●損益計算書の概要

損益計算書は、令和5年度に費用、収益がどれだけ発生したかを表し、運営状況を明らかにするものです。費用がいくらかかったか、収益がいくらあったか、その結果、利益または損失がどれだけ発生したかが分かります。

(百万円)				
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
経常費用	45,270	45,937	46,735	798
業務費	44,154	44,909	45,743	833
教育経費	2,217	2,297	2,067	▲ 229(※3)
研究経費	2,108	2,101	2,079	▲ 22
診療経費	15,601	16,032	17,099	1,066
教育研究支援経費	940	1,235	1,058	▲ 177(※3)
受託研究費等	1,419	1,529	1,548	19
人件費	21,868	21,712	21,888	176
一般管理費	1,049	957	928	▲ 29
財務費用	62	65	63	▲ 1
雑損	3	4	0	▲ 3
臨時損失	14	47	174	127
固定資産除売却損	7	4	8	4
その他	6	42	166	123
費用合計	45,285	45,984	46,910	925

(注)令和4年度に臨時利益が大きく増加し、それに伴い、当期総利益が大きく増加しています。これは、国立大学法人会計基準の改訂により資産見返負債が廃止され、令和4年度期首に資産見返負債を臨時利益に振替えたことが影響しております。

令和4年度と比較した令和5年度の主な増減要因

(※3)教育経費・教育研究支援経費	令和4年度は附属幼稚園や動物実験施設等の改修工事がありましたが、令和5年度は大規模な改修工事がなかったため、修繕費の減等により減少しています。
(※4)附属病院収益	入院及び外来単価の向上や手術件数の増等により増加しています。

(百万円)				
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
【負債の部】	41,917	31,170	31,436	265
I 固定負債	31,190	20,185	19,881	▲ 304
資産見返負債	11,463	-	-	-
長期繰延補助金等	-	1,373	2,197	824
長期リース債務	2,752	2,689	2,473	▲ 216
債務負担金	60	23	8	▲ 15
長期借入金	15,451	14,532	13,620	▲ 911
引当金	1,173	1,307	1,350	43
その他の固定負債	289	260	230	▲ 29
II 流動負債	10,726	10,985	11,555	570
運営費交付金債務	-	591	532	▲ 59
寄附金債務	2,815	2,912	2,856	▲ 55
短期リース債務	833	844	851	6
一年以内返済予定債務負担金	64	36	15	▲ 21
一年以内返済予定長期借入金	1,238	1,270	1,215	▲ 55
未払金	4,786	4,377	4,730	352
その他の流動負債	987	951	1,353	402
【純資産の部】	44,000	54,760	54,283	▲ 477
I 資本金	39,953	39,953	39,953	-
II 資本剰余金	▲ 2,555	▲ 2,667	▲ 4,307	▲ 1,640
III 利益剰余金	6,602	17,473	18,636	1,162
負債・純資産合計	85,917	85,931	85,719	▲ 211

※令和5年度の詳細な財務諸表

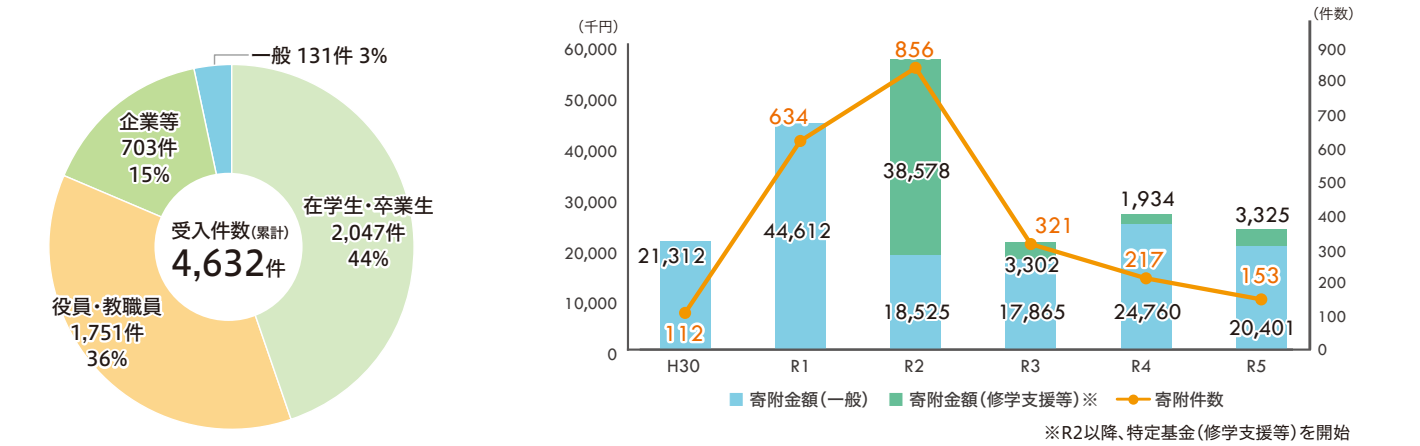


click

富山大学基金の概要と受入状況

富山大学基金は、学生支援や教育・研究支援、国際交流支援や地域・社会貢献支援等の様々な事業の一層の発展を図るため、平成24年に設立されました。

この間に学内の教職員はもとより、企業法人の皆様方、名誉教授の先生方、事務職員のOB・OG、同窓会及び一般の皆様方のご理解とご協力により、令和5年度末の寄附件数は4,632件、基金寄附総額は3億3,600万円となりました。



令和5年度支援事業

ご寄附いただいた基金により、令和5年度において以下の支援事業を実施しました。

学部1年次対象短期海外英語研修支援事業 / 海外留学・語学研修等支援事業 / 夏季オンライン英語研修プログラム支援事業

本学では、教育における戦略の1つとしてグローバル人材の養成を掲げており、意欲ある学生が新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出せる環境を整備しています。

詳細は国際交流ページ(P24)を参照してください。



学生表彰規則による成績優秀者表彰事業

各学部・大学院生の成績優秀者を表彰する事業です。令和5年度は36名の学生に表彰盾と記念品を授与しました。



課外活動支援事業

本学の課外活動施設は老朽化が進んでおり、施設によっては激しい老朽化が原因で学生たちが活動中に怪我をしてしまう恐れがありました。

令和5年度に本学基金より課外活動支援事業支援を行い、五福キャンパスのテニスコートの修繕をはじめとした様々な支援を行いました。



令和6年度に予定している支援事業

学生の新たな挑戦、英語力や学習意欲向上への支援

- **学部1年次対象短期海外英語研修支援事業**
学部1年次学生で海外留学への意欲がある学生に短期海外派遣プログラムへの参加費を支援します。
- **海外留学・語学研修等支援事業**
海外留学を計画する学生で、学部長等の推薦のあった学生から選出を行い、選出された学生に長期間の海外留学への費用を支援します。
- **夏季オンライン英語研修プログラム支援事業**
オンラインでの英語研修を希望する意欲ある学生に参加費を支援します。
- **学生表彰規則による成績優秀者表彰事業**
各学部及び大学院生の成績優秀者を表彰のうえ、記念品を贈呈します。
- **富山大学学生に対する災害対応支援金給付事業**
災害により学生生活に支障をきたした学生に、1日も早く通常の学生生活に復帰させることを目的として支援します。
- **海外学修科目の修得促進事業**
学部生の成績評価及び単位認定を伴う海外学修を支援します。
- **海外ダブルディグリー・プログラム派遣支援事業**
ダブル・ディグリー・プログラムにより海外に派遣する学生に渡航費を支援します。

職員の国際交流推進に資する能力向上への支援

- **グローバルSDにおける海外派遣支援事業**
外国人留学生の受入れを促進させるため、本学のPRの場として、海外で実施される「日本留学フェア」への派遣と協定校への訪問を支援します。



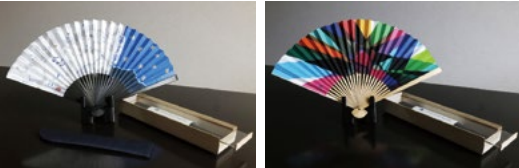
寄附について

税制上の優遇措置

2,000円以上のご寄附は「寄附金控除」の対象となり、個人では「所得控除」、法人では「全額損金算入」が適用されます。なお、修学支援基金又は研究等支援基金への個人からのご寄附については、「所得控除」に加え「税額控除」も適用になります。確定申告の際に、控除額が有利な方をお選び下さい。

一定金額以上ご寄附いただいた方々への謝意

ご寄附が一定金額以上に達した方へ金額に応じて、「富山大学オリジナル扇子」又は錫製品を贈呈しております。



リサイクル募金について

読み終えた本・DVD・ブランド品等を皆様からご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される富山大学リサイクル募金の取組を行っております。寄附金は学生支援や教育研究支援事業に役立てられます。



富山大学基金への寄附の申し込み方法

富山大学基金には、以下の7つの種類がございます。

- 一般基金 ○修学支援基金 ○研究等支援基金 ○課外活動支援基金
- 経済学部基金 ○医学部基金 ○工学部基金

富山大学基金へのご寄附は、以下の3つの方法があります。詳細は、富山大学基金のホームページでご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

- インターネットからのお申込み**
クレジットカード決済やコンビニ決済等でご寄附いただけます
- 金融機関からのお振込み**
銀行、ゆうちょ銀行からのお振込みでご寄附いただけます
- 大学窓口でのお申込み**
大学窓口で現金でご寄附いただけます

【お問い合わせ先】総務部総務課広報・基金室 Tel:076-445-6178 E-mail:kikin@adm.u-toyama.ac.jp



富山大学基金HP

click

広報刊行物等のご紹介

富山大学を更に詳しくお知りになりたい方は、ホームページ、広報刊行物等も併せてご覧ください。

学長メッセージ「Saito Vision2023」

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr-message/president/vision2023/>



国立大学法人ガバナンス・コード

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/information/code/>



大学概要

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/overview/about/>



環境報告書

<http://www.erc.u-toyama.ac.jp/environment/index.html#report>



大学案内

<https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/leaflet/>



学部案内

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publicity/e-book/#digital-pamphlet>



まなばれ

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/manabare/>



News Letter

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publication/news-letter/>



富山大学シンボルマーク



左上に配置されている、アルファベットの「T」と「U」をモチーフにしたデザインは、富山大学が、大空・世界を飛翔するイメージを表しています。大きい楕円は国際社会を小さい楕円は地域を表し、一体となって発展することを表現しているシンボルマークです。

そのシンボルマークとともに使用されている、四角は伝統性を示しており、シンボルマークが三次元的にダイナミックに構成されることにより創造性の豊かさを表現しています。

メインカラーのパール感を持った知的な印象のブルーグレーは個性的な色です。また富山の豊かな自然の雪や水をもイメージできます。自然や人々からの調和の中から生まれる独自の創造性を生かし、活躍する学生を育てていく世界レベルの大学を表現しています。

国立大学法人 富山大学 統合報告書2024

発行：財務施設部財務企画課 (Tel.076-445-6699)

総務部企画評価課

総務部総務課広報・基金室

所在地：〒930-8555 富山市五福3190

E-mail：zaikikaku@adm.u-toyama.ac.jp